第24号　　発行日　平成28年８月１日

日本耳鼻咽喉科学会
大阪府地方部会会報

THE OTO-RHINO-LARYNGOLOGICAL SOCIETY OF JAPAN
OSAKA

目　　次

巻 頭 言 …… 1

役員会議事録 …… 2

役員名簿・役割分担 …… 11

規　　則 …… 13

平成27年度 会計報告 …… 17

新入会員の紹介 …… 18

補聴器相談医名簿 …… 34

ENT FAX …… 42

製薬会社広告 …… 58

巻　頭　言

日本耳鼻咽喉科学会大阪府地方部会長
猪　原　秀　典

平成28年度大阪府地方部会誌をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

本年度の医療現場は新専門医制度に翻弄されて始まりました。結局、専門研修プログラムの開始は見送られましたが、専門医の更新については新専門医制度に則って行われます。これに伴い、特に来年度あるいは再来年度に専門医更新を控えておられる会員の先生方にとりましては、専門医共通講習、耳鼻咽喉科領域講習の単位を取得することが喫緊の課題となっていることと思います。先日、名古屋で開催された日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会におきましても、多くの会員の先生方が耳鼻咽喉科領域講習の会場に殺到し、特別企画や一般演題の会場が閑散としていたのは記憶に新しいところです。他科の学会でも同様であり、こうした現場での混乱は当面続くものと予想されます。地方部会によっては共通講習や領域講習のセミナーを開催するところもありますが、大阪府地方部会としましては現在そのような予定はありません。これは大阪府下では大学あるいは医会等々でそうしたセミナーが十分数開催されると判断しているからですが、今後の動向を注視し、大阪府地方部会がそうしたセミナーを主催あるいは共催することが会員の先生方に資するようであれば、弾力的に対応していきたいと考えています。

専門研修プログラムが開始されると、耳鼻咽喉科を取り巻く環境に変化が訪れることは必至です。耳鼻咽喉科を志望する専攻医の数は減少するかもしれませんし、また総合診療科の台頭は日常診療の現場に少なからぬ変化をもたらすはずです。耳鼻咽喉科の未来を確固としたものにするためには、“minor surgery”から“special surgery”への変革が必要です。また、耳鼻咽喉科開業医における診療内容の未来像を構築することも必要です。今後とも会員の先生方からご意見・ご助言を頂戴しつつ、こうした活動を継続し耳鼻咽喉科の未来に備えたいと思います。耳鼻咽喉科の未来に想いを馳せると今夏の暑さが一段と厳しく感じられますが、皆様どうか暑中ご自愛下さい。

役　員　会　議　事　録

平成27年度　第１回

平成27年６月６日　開催

出席者　35名

協議事項

1. 代議員補欠選挙について
   標記の件について行うことを承認した。
2. 大阪府地方部会平成26年度会計決算、平成27年度会計予算について（資料２）
   綾仁監事より監査報告があり、これを承認した。
3. 大阪府地方部会役員会、学術講演会について（資料３）
   学術講演会終了を一律16時30分とし、その後に役員会を開催することとした。
   総会については役員会終了後に開催することとした。
4. 学術集会参加報告票の受付時間について
   学術講演会終了２時間前に受付を締切とすることを確認した。
5. 大阪府地方部会ホームページについて（資料４）
   標記の件について新たに作製することを承認した。
6. 大阪府地方部会費の値上げについて（資料５－１、５－２）
   平成28年度より5,000円に値上げすることを承認した。
7. 大阪府地方部会費未納者について（資料６）
   未納者リストを確認した。
8. 大阪府地方部会規則改訂について（資料７）
   標記（案）を承認した。
9. 大阪府地方部会規則改訂の委員会立ち上げについて
   友田教授を委員長とし、５大学教授、川嵜副部会長、浅井会員を委員とした委員会を設置することを承認した。

10. 本年度および次年度の例会開催日と開催場所について

以下の開催日程と開催場所を承認した。

平成27年９月５日（土）、 担当：関西医大、 会場：中之島センター

平成27年12月５日（土）、 担当：大阪医大、 会場：中之島センター

平成28年３月５日（土）、 担当：大阪市大、 会場：中之島センター

平成28年６月４日（土）、 担当：阪大、 会場：中之島センター

平成28年９月３日（土）、 担当：近大、 会場：中之島センター

11. 第41回全国身体障害者福祉医療講習会・第21回補聴器キーパーソン全国会議について（資料８）

標記の件についてプログラム（案）、収支見込（案）を承認した。

12. その他

報告事項

1. 新役員の紹介

新役員より自己紹介があった。

2. 地方部会役員について（資料１－１、１－２）

標記の件について報告があった。

3. 第333回例会プログラムについて

標記の件について寺尾委員（近畿大学）より報告があった。

4. 医育機関代表者・都道府県地方部会長合同会議（H27.5.20）について

標記の件について猪原部会長より報告があった。

5. 平成26年度、平成27年度日耳鼻専門医試験について

猪原部会長より、大阪府からの受験申込は15名であり、現在専門医制度委員会で資格審査中であるとの報告があった。

6. 平成27年度補聴器相談医資格更新講習会の開催予定（H27.11.7）について

標記の件について東川委員より報告があった。

7. 平成27年度社療近畿ブロック会議の開催予定（H27.6.27）について

標記の件について津田委員より報告があった。

8. その他の報告

１）日耳鼻保険医療委員会全国協議会の開催予定（H27.9.27)、東海大学校友会館について

標記の件について津田委員より報告があった。

２）各種委員会について

●第40回日耳鼻医事問題セミナーがH27.6.27-28に松江市で開催されることについて報告があった。

●第39回日耳鼻夏期講習会がH27.7.4-5に軽井沢で開催されることについて報告があった。

３）平成26年度補聴器相談医会計報告について（資料９）

標記の件について東川委員より報告があった。

平成27年度　第２回

平成27年９月５日　開催

出席者　35名

協議事項

1. 本年度および次年度の例会開催日と開催場所について

   以下の開催日程と開催場所を承認した。

   平成27年12月５日（土）、 担当：大阪医大、 会場：中之島センター

   平成28年３月５日（土）、 担当：大阪市大、 会場：中之島センター

   平成28年６月４日（土）、 担当：阪大、　　会場：中之島センター

   平成28年９月３日（土）、 担当：近大、　　会場：中之島センター

   平成28年12月３日（土）、 担当：関西医大、 会場：中之島センター

2. その他

報告事項

1. 新役員の紹介

   新役員より自己紹介があった。

2. 参与について（資料１）

   標記の件について報告があった。

3. 代議員補欠選挙について

   標記の件について選挙管理委員会　松永　喬委員長より中間報告があった。

4. 第334回例会のプログラム編成について

   標記の件について、友田教授（関西医科大学）より46題の演題登録のうち、１題の取り下げがあり、45題の発表があったとの報告があった。

5. 日耳鼻専門医制度部からの報告

   川嵜副部会長より今年度の専門医試験について、全国で260名の受験者中、191名が合格したこと、大阪府地方部会からは14名の受験者中、10名が合格したとの報告があった。

6. 平成27年度社療近畿ブロック会議（H27.6.27）について

   標記の件について津田委員より報告があった。

7. 日耳鼻保険医療委員会全国協議会（H27.9.27）について
標記の件について津田委員より報告があった。

8.「鼻の日」事業の報告
標記の件について川嵜副部会長より報告があった。

9. 平成27年度補聴器相談医更新講習会の開催予定（H27.11.7）について
標記の件について東川委員より報告があった。

10. その他の報告

●第41回全国身体障害者福祉医療講習会・第21回補聴器キーパーソン全国会議（H27.6.20－21：於 豊中市）
標記の件について愛場委員、東川委員より報告があった。

●第40回日耳鼻医事問題セミナー（H27.6.27－28：於 松江市）
標記の件について田中耕一委員より報告があった。

●第28回日本口腔・咽頭科学会（H27.9.10－11：於 大阪市）
標記の件について萩森委員より報告があった。

●日耳鼻渉外委員会のST雇用に関するアンケートについて
標記の件について土井教授より報告があった。

●日耳鼻専門医講習会の日時変更について
標記の件について川嵜副部会長より報告があった。

平成27年度　第３回

平成27年12月５日　開催

出席者　30名

報告事項

1. 代議員の補欠選挙について

   井口広義先生、川島佳代子先生の２名の当選の報告が松永委員長より行われた。

2. 新役員の紹介について

   藤井先生、川島先生　両名より自己紹介があった。

3. 例会の開催予定について

   下記の通り報告があった。

   平成28年３月５日（土）、 担当：大阪市大、 会場：中之島センター

   平成28年６月５日（土）、 担当：阪大、　　会場：中之島センター

   平成28年９月３日（土）、 担当：近大、　　会場：中之島センター

   平成28年12月３日（土）、 担当：関西医大、 会場：中之島センター

   平成29年３月４日（土）、 担当：大阪医大、 会場：中之島センター

4. 第335回例会のプログラムについて

   標記の件について萩森委員（大阪医大）より43題のうち２題が動画演題であったとの報告があった。

   動画演題２題とも禁止されているMacの持ち込みであった。

   猪原部会長より例会のプログラム編成につき、古くからの慣例に従わず、発表順など自由に担当校が決めるよう要望があった。

5. 耳鼻咽喉科保険医療実態調査（H27.10月分）について

   津田委員長より報告があった。

6. 日耳鼻保険医療委員会全国協議会（H27.9.27、東京）について

   浅井委員、川嵜委員、有賀委員、津田委員の４名が出席したとの報告が津田委員長よりあった。

上記５，６の２項目の詳細は医会の会報に掲載予定である。

7. 研修施設認可届け出状況（H27.10.31締め切り）について
新規０施設、更新７施設、辞退１施設であったとの報告が猪原部会長よりあった。
8. 補聴器相談医資格更新のための講習会（H27.11.7）について
①受講者は121名、講師は新田先生、東川先生で行われたこと、②来年度の更新講習会は７月第１週目の土曜日、新規講習会は11月第１週目の日曜日を予定していること、の報告が東川委員よりあった。

協議事項

1. 平成27年度社会医療部全国会議（H27.1.30-31）への出席者の決定について

保険医療委員会ワークショップおよび全国会議	津田委員、有賀委員、櫟原委員、川嵜委員
産業環境保健委員会委員長会議	奥村新一委員
福祉医療委員会全国会議	愛場委員、東川委員
乳幼児医療担当推進役全国会議および委員会	坂本委員
学校保健全国代表者会議および学校保健研修会	川嵜委員、菊守委員
医事問題委員会ワークショップおよび全国会議	田中委員、宇野委員、奥村隆司委員
認可研修施設指導責任者・専門医制度合同委員会	河田委員

2. お昼休みの学術集会参加報告票の受付について
昼休み中は一時的に受付が不在となる時間が発生し、その時間は学術集会参加報告票の提出ができないことを確認した。
3. 初期研修医等（日耳鼻未加入）の大阪地方連合会の発表について
奈良県、和歌山県地方部会の現況を確認し、継続協議とすることとした。

平成27年度　第４回

平成28年３月５日　開催

出席者　36名

報告事項

1. 例会の開催日と場所の決定

以下の開催日程と開催場所を承認した。

平成28年６月４日（土）、 担当：阪大、　　会場：中之島センター

平成28年９月３日（土）、 担当：近大、　　会場：中之島センター

平成28年12月３日（土）、 担当：関西医大、 会場：中之島センター

平成29年３月４日（土）、 担当：大阪医大、 会場：中之島センター

平成29年６月３日（土）、 担当：大阪市大、 会場：中之島センター

2. 第336回例会のプログラムについて

標記の件について井口教授（大阪市立大学）より報告があった。

3. 社療全国会議（H28.1.30-31）の報告

●社療部保険医療委員会ワークショップおよび全国会議

標記の件について津田委員より報告があった。

●産業・環境保健委員会委員長会議

標記の件について奥村新一委員より報告があった。

●福祉医療委員全国会議

標記の件について愛場委員より報告があった。

●福祉医療・乳幼児担当者全国会議

標記の件について坂本委員より報告があった。

●学校保健全国代表者会議ならびに学校保健研修会

標記の件について菊守委員より報告があった。

●地方部会医事問題委員会ワークショップおよび全国会議

標記の件について田中委員より報告があった。

●認可研修施設指導責任者・専門医制度委員会合同会議

標記の件について河田委員より報告があった。

4. 専門医制度部よりの報告
標記の件について猪原部会長より報告があった。
5.「耳の日」の事業報告
標記の件について大阪市立大学・井口教授、川嵜副部会長より報告があった。
6. 保険医療実態調査（H27.10月分）の報告
標記の件について津田委員より報告があった。
7. 日耳鼻学会主催の会の開催予定について
標記の件について猪原部会長より報告があった。
8. その他
●学会医会協議会について川嵜副部会長より報告があった。
●２月末に大阪府地方部会のホームページがリニューアルされ、次回より大阪地方連合会の演題登録がWEBを通じて行うことの報告が猪原部会長よりあった。

協議事項

1. 平成28年度予算書について
標記の件について猪原部会長より報告があり、承認された。
2. その他
●大阪地方連合会での初期研修医の発表は、日耳鼻および大阪府地方部会へ未入会でも認めることとした。
●大阪府地方部会では、新専門医制度更新についての説明会は当面は行わないこととした。
専門医共通講習、耳鼻咽喉科領域講習についても当面は行わないこととした。
●大阪府下の５大学が学会を主催した場合、事前登録の取扱いは各大学に一任することとした。

日耳鼻大阪府地方部会役員名簿

（平成27年12月５日　現在）

部　会　長 （１名）	猪原　秀典			
副部会長 （１名）	川嵜　良明			
参　　与 （21名）	綾仁　信夫	石田　　稔	植松　治雄	大迫　茂人
	荻野　　敏	酒井　國男	高島　凱夫	高橋　宏明
	富山　要二	中井　義明	長谷川　進	前川彦右衛門
	牧本　一男	松永　　喬	村田　清高	柳原　尚明
	山下　敏夫	山本　悦生	吉田　淳一	吉野　邦俊
	渡部　泰夫			
代　議　員 （24名）	愛場　庸雅	浅井　英世	有賀　秀治	井口　広義
	櫟原　茂之	猪原　秀典	岩井　　大	小川　　真
	奥村　隆司	川嵜　良明	川島佳代子	河田　　了
	坂本　平守	竹中　　洋	田中　信三	津田　　守
	寺尾　恭一	土井　勝美	友田　幸一	中村　晶彦
	中山　堯之	藤井　　隆	森﨑　　昇	山根　英雄
運営委員 （10名）	宇野　敦彦	奥村　新一	菊守　　寛	北尻　雅則
	坂　　哲郎	田中　耕一	萩森　伸一	東川　雅彦
	森脇　計博	山本　秀文		
監　　事 （２名）	綾仁　信夫	佐野　光仁		
幹　　事 （２名）	今井　貴夫	土井　　直		

（50音順・敬称略）

※下線は新任を示す

地方部会役員役割分担

（平成27年12月５日　現在）

学　　術	井口　広義 土井　勝美	小川　　真 友田　幸一	川島佳代子 藤井　　隆	河田　　了
庶務・会計	○今井　貴夫	△岩井　　大	坂　　哲郎	森﨑　　昇
保険医療	○津田　　守 井口　広義 竹中　　洋	△川嵜　良明 櫟原　茂之 田中　信三	浅井　英世 小川　　真	有賀　秀治 北尻　雅則
産業環境保健	○奥村　新一	△土井　　直	岩井　　大	
福祉医療	○愛場　庸雅	△東川　雅彦	森脇　計博	
学校保健	○菊守　　寛	△坂　　哲郎	川嵜　良明	
医事問題	○田中　耕一	△奥村　隆司	宇野　敦彦	
耳・鼻の日	○井口　広義	△友田　幸一	中村　晶彦	山根　英雄
救急問題	○田中　信三	△宇野　敦彦	川島佳代子	森脇　計博
専門医制度	○河田　　了 友田　幸一	△土井　勝美	井口　広義	小川　　真
地域医療	○川嵜　良明	△中山　堯之	櫟原　茂之	
乳幼児医療	○坂本　平守	△愛場　庸雅	土井　勝美	
編集委員	○今井　貴夫 萩森　伸一	△山本　秀文	岩井　　大	寺尾　恭一

（委員長・副委員長以下は50音順・敬称略）　※下線は新任を示す　○：委員長　△：副委員長

昭和50年４月１日　作成
平成８年６月８日　改定
平成16年６月５日　改定
平成26年６月７日　改定
平成27年６月６日　改定

一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会
大阪府地方部会規則

第１条　1.　本地方部会は一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会定款第３条および定款細則第１章により設置し、大阪府地方部会と称する。

2.　本会は事務所を部会長が指定する大阪府内の施設内に置く。

第２条　本会は大阪府内において就業または居住する一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会会員をもって組織する。

第３条　本会は、一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会の目的を達成するための事業を行うとともに大阪府における耳鼻咽喉科学の発展と耳鼻咽喉科診療の充実ならびに会員相互の親睦を計ることを目的とする。

第４条　会員は所定の会費を支払わなければならない。

第５条　本会の会員になろうとするものは、会費を添えて入会申込書を提出しなければならない。

第６条　会員が住所氏名を変更した時は、速やかに、本会へ届け出なければならない。

第７条　会員は本会が行う講演会および研究会に参加することができる。

第８条　会員が本会を退会しようとする時は理由を附して退会届を提出し、部会長の承認を経なければならない。

第９条　1.　本会に、次の役員を置く。

部会長	１名	副部会長	１名
運営委員	若干名	監事	２名

2.　本会に、顧問ならびに幹事を若干名置くことができる。

第10条　役員は別に定める方法により選出する。

第11条　顧問ならびに幹事は役員会で推挙する。

第12条　部会長は、本会を代表し、会務を総理する。

第13条　副部会長は部会長を補佐し、部会長が　欠けた時又は事故がある場合において役員会が必要と認めた時は副部会長が部会長の職務を代行する。

第14条　監事は会務の執行状況および本会会計の監査を行う。

第15条　1.　役員ならびに顧問、幹事の任期は２年とする。

2.　役員ならびに幹事は任期が満了しても、後任者が選任されるまでは、その職務を行わなければならない。

第16条　1.　役員に欠員が生じた時は、速やかに補充しなければならない。

2.　補充した役員の任期は、前任者の残任期間とする。

第17条　1.　本会の事務を処理するために、職員を置くことができる。

2.　職員は有給とする。

第18条　定時総会は年１回、また必要ある場合には臨時総会を役員会の承認を経て、部会長はこれを招集し、部会長は、その議長となる。

第19条　総会の承認および決議は、出席者の多数決による。可否同数の場合は議長がこれを決める。ただし書面による議決権の行使を認めない。

第20条　総会の議事の要項および議決した事項は、会員に通知する。

第21条　1.　役員会は、部会長が招集し、その議長となる。

2.　役員会は本会役員、一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会役員、代議員および参与により構成される。

3.　顧問ならびに幹事は役員会に出席し意見を述べることができる。

第22条　本会の目的を達成するため、次の委員会を設ける。

1）学術委員会

2）庶務・会計委員会

3）保険医療委員会

4）産業環境保健委員会

5）福祉医療委員会

6）学校保健委員会

7）医事問題委員会

8）耳・鼻の日委員会

9）救急問題委員会

10）専門医制度委員会

11）地域医療委員会

12）その他部会長が必要と認める委員会

第23条　本会の経費は、会費、および寄付金、その他の収入を以て充てる。

第24条　本会の会計年度は、毎年４月１日に始まり、翌年３月31日に終わる。

第25条　本会は他の地方部会と連合で講演会を開催することができる。

第26条　他の地方部会に所属する一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会会員は、本会が行う講演会および研究会に参加することができる。

第27条　一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会代議員はその定めるところに基づいて選出する。

第28条　年会費は平成28年度より5,000円とする。

附　則

この規則の改定は役員会で審議し承認した後、会員に報告する。

一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会
大阪府地方部会役員選出規定

第１条　部会長、監事は選挙管理委員会が別に定める選挙規定に準じて立候補者より選出される。

第２条　副部会長は部会長が指名する。運営委員は部会長が推薦する。

第３条　部会長、監事の選出に当たって、選挙管理委員会を置き、一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会代議員選挙規則および同細則に準じ、選挙日は代議員選挙日と同日に行う。

第４条　役員は可及的速やかに本会総会（定時あるいは臨時）において報告する。

一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会
大阪府地方部会代議員選出規定

第１条　代議員は、一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会代議員選挙規則および同細則の定めるところに基づいて選出する。

第２条　代議員選挙は、２年に１度、２月に実施することとし、任期は４月１日から２年間とする。

第３条　代議員の補欠選挙は、一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会代議員選挙規則および同細則の定めるところに基づいて選出する。

第４条　代議員の被選出者は、一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会正会員であって本地方部会の会員に限る。

平成27年度 大阪府地方部会会計

平成27年度 大阪府地方部会会計決算
平成28年度 大阪府地方部会会計予算

自　平成27年４月１日　　至　平成28年３月31日

（単位：円）

		H27 予算	H27 決算	H27 執行率	H28 予算
収入の部	本年度会費	3,534,000	3,840,000	108.7%	4,650,000
	過年度会費	140,000	196,000	140.0%	140,000
	本年度会費（奈良県）	140,000	141,000	100.7%	140,000
	本年度会費（和歌山県）	55,000	52,000	94.5%	50,000
	地方部会誌広告代	450,000	400,000	88.9%	350,000
	専門医地方部会連絡費・委託費	338,000	378,000	111.8%	206,000
	預金利子	800	1,007	125.9%	1,000
	補聴器相談医更新料	18,000	18,000	100.0%	63,000
	雑収入（補聴器相談医講習会残金）	50,000	14,617	29.2%	13,000
	計	4,725,800	5,040,624	106.7%	5,613,000

支出の部	地方会（333回～336回）	1,157,000	1,110,718	96.0%	1,216,000
	役員会（会議費）	278,000	113,152	40.7%	66,000
	会誌	646,000	446,768	69.2%	475,000
	役員改選	0	183,662	－	160,000
	事務費（通信費）	170,000	189,216	111.3%	140,000
	事務費（印刷代、その他）	364,600	308,386	84.6%	360,000
	事務費（旅費交通費）	170,000	151,660	89.2%	170,000
	国際耳鼻咽喉科学振興会への寄付 （国際耳鼻咽喉科学振興会、賛助費）	20,000	20,000	100.0%	20,000
	書記手当	2,300,000	2,287,433	99.5%	2,500,000
	福利厚生費	340,000	339,192	99.8%	360,000
	資格に関する諸経費（補聴器相談医）	11,000	8,050	73.2%	31,000
	HP維持費	0	237,800	－	21,600
	予備費	200,000	0	0.0%	200,000
	計	5,656,600	5,396,037	95.4%	5,719,600

当 期 収 支 差 額	△930,800	△355,413	0	△106,600
前期繰越収支差額	3,955,181	3,955,181		3,599,768
次期繰越収支差額	3,024,381	3,599,768		3,493,168

平成28年度 日耳鼻大阪府地方部会
新 入 会 員 の 紹 介

●【正会員】

野　呂　恵　起（Noro Keiki）大阪医科大学 …… 19

岩　﨑　成　仁（Iwasaki Naruhito）大阪市立大学 …… 20

谷　水　弘　毅（Tanimizu Hiroki）大阪市立大学 …… 21

山　本　祐　輝（Yamamoto Yuki）大阪市立大学 …… 22

大　谷　志　織（Otani Shiori）大阪大学 …… 23

杉　田　侑　己（Sugita Yuki）関西医科大学 …… 24

副　島　千　晶（Soejima Chiaki）大阪市立総合医療センター …… 25

竹　村　和　哉（Takemura Kazuya）大阪府立急性期・総合医療センター …… 26

是　松　瑞　樹（Korematsu Mizuki）大阪府立成人病センター …… 27

上　野　裕　也（Ueno Yuya）大阪労災病院 …… 28

坂　田　正　行（Sakata Masayuki）堺市立総合医療センター …… 29

小　林　　悠（Kobayashi Haruka）市立豊中病院 …… 30

松　尾　康　平（Matsuo Kohei）住友病院 …… 31

中　島　　崇（Nakajima Takashi）ベルランド総合病院 …… 32

北　山　一　樹（Kitayama Itsuki）JCHO大阪病院 …… 33

姓　　名　野　呂　恵　起（Noro Keiki）
卒業年度　平成26年
出 身 校　大阪医科大学
出 身 地　奈良県
勤 務 先　大阪医科大学

今年度、大阪医科大学の耳鼻咽喉科・頭頸部外科に入局させていただきました、野呂 恵起と申します。平成26年３月に大阪医科大学を卒業し、同年４月から平成28年３月まで大津赤十字病院で初期研修を行いました。出身は奈良県で、県立奈良高等学校を卒業後は理学部に進学し、大学と大学院の修士課程で化学を学びました。医学部は社会人生活を経た後に入学致しました。高校時代までは硬式テニスをしておりましたが、体力に自信がある訳でもなく、医学部を卒業した際には外科系ではなく、これまでに学んだことを活かすことができる糖尿病内科へ進むことを漠然と思い描いておりました。初期研修中、救急の現場で外科的手技に魅了され、耳鼻科疾患に触れる中で科への興味が芽生えたことが転機となり、耳鼻咽喉科医を志すようになりました。高い専門性があり、外科的要素だけではなく内科的要素を併せ持つこと、そして何よりも生活していく上で欠かすことができない、感覚器の機能障害の治療に関わらせていただける事に、強い魅力とやりがいを感じております。

遠回りをした分、医師としてのスタートが遅れてしまった私ではありますが、河田教授を始め、先生方が暖かく迎え入れてくださったこともあり、母校で耳鼻咽喉科医としてのスタートを切らせていただくこととなりました。

耳鼻咽喉科での研修が始まり、はや１ヶ月が経過いたしました。耳鼻咽喉科の奥深さに圧倒され、また自分の不甲斐なさを痛感させられる日々ではございますが、時間を惜しまず、熱心に指導してくださる先生方のおかげで、大変充実した研修生活を過ごさせていただいております。

至らない点が多々あるかとは存じますが、一人前の耳鼻咽喉科医となれるよう日々精進して参りますので、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

姓　　名　岩　﨑　成　仁（Iwasaki Naruhito）
卒業年度　平成20年
出 身 校　滋賀医科大学
出 身 地　滋賀県
勤 務 先　大阪市立大学

平成28年４月より大阪市立大学耳鼻咽喉科に入局いたしました、岩﨑 成仁と申します。私は、学生時代に耳鼻咽喉科の扱う多岐にわたる疾患、治療に大変感銘を受け、耳鼻咽喉科医を志すことを決意し、平成20年に滋賀医科大学を卒業後、初期研修を経て、滋賀県内の病院で耳鼻咽喉科後期研修医として勤務しておりました。日々臨床医として勤務する中で、アレルギー疾患、とりわけ鼻アレルギーに悩む患者さんの数が年々増加していること、またその病態や治療法に未解明な部分が多くあることに大変興味を持ち、平成25年より兵庫医科大学先端医学研究所アレルギー疾患研究部門にて３年間、大学院生として鼻アレルギーの研究に従事しました。一般的にアレルギー性鼻炎では、抗原特異的IgE抗体の存在が症状の誘発に重要であることが知られています。しかし、アレルギー性鼻炎様症状を示す患者には血清においても鼻粘膜局所においても抗原特異的IgE抗体が存在しないような症例も存在します。私は、このようなIgE非依存性に鼻炎症状を誘導可能な因子について、マウスモデルを用いて研究を継続してきました。その結果、鼻粘膜においてTh2細胞が抗原特異的に活性化した状態では、エンドトキシンを引き金としたIgE非依存性の即時型反応を誘導可能であることを明らかにしました。さらに、その誘導に関して、通常の即時型反応の誘導に関与するとされている肥満細胞、好塩基球ではなく、マクロファージが関与していることを明らかにしました。今後、大学病院にて豊富な症例を経験させていただく中で、医師としての研鑽を積むとともに、人においてもこのような現象が誘導されるのかということについても引き続き研究を進めていくことができたらと思っております。経験が浅く、まだまだ未熟者ではございますが、向上心を忘れることなく精一杯努めていきたいと思っております。今後ともどうぞご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

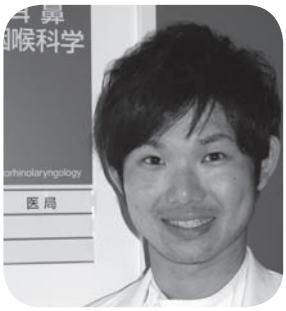
姓　　名　谷　水　弘　毅（Tanimizu Hiroki）
卒業年度　平成26年
出 身 校　兵庫医科大学
出 身 地　兵庫県
勤 務 先　大阪市立大学

３年目後期研修医の谷水 弘毅と申します。

入学前はスポーツ整形に興味がありましたが、卒業時にはたくさんの人に必要とされたいと思い、外科も内科も幅広くしたいと考えるようになりました。初期研修終了後も幅広くしたいという思いが強くなり外科と内科の両方が行える大阪市立大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科に入局しました。

幼少時から体が弱く頻繁に耳鼻咽喉科にかかっていたこともあり耳鼻科に興味を持っていました。昨年には扁桃摘出も受けました。小さい手術だと聞いていましたが、術後に出血し退院が延期してしまいました。入院することがこんなにもつらいことなんだと実際に経験して初めて痛感しました。

耳鼻科では子供から大人まで幅広い年齢層の方に接することができ多くの人に必要とされるために魅力を感じました。慣れない環境での勤務となりますが精一杯頑張りたいと思います。よろしくお願いします。



姓　　名　山　本　祐　輝（Yamamoto Yuki）
卒業年度　平成26年
出 身 校　日本大学
出 身 地　大阪府
勤 務 先　大阪市立大学

平成28年度に大阪市立大学医学部耳鼻咽喉病態学教室に入局させて頂きました山本 祐輝です。

大学時代は、硬式野球部に所属しており主にサードを守っていました。幼少期から野球と鼻炎で耳鼻科通いの日々を過ごしていました。耳鼻咽喉科を専攻するきっかけは、学生時代･研修医時代に研修させて頂いた際、自分が幼少期に通っていた耳鼻咽喉科とのあまりの違いに大きな衝撃と感銘を受けた所から始まりました。

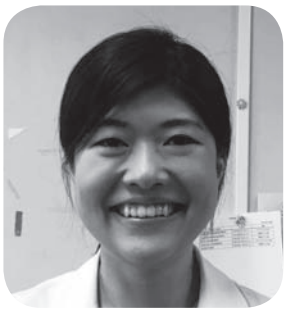
特に頭頸部癌の手術は今まであまり見慣れない光景であり、衝撃があるとともに、興味深さを感じました。また、難聴、めまい、OSAS、慢性中耳炎外来などさまざまな分野を学ばせて頂きました。

特に魅力に感じたのは、手術・外来など様々な診療において耳鼻科医は診断から治療まで診察でき、治癒後の経過も長期間にわたり他科に依頼することなく診察できる事だと考えます。

また、学内だけでなく地方会・頭頸部外科学会でも発表する場を与えて頂き、大変勉強になったのはもちろんのこと、貴重な経験をさせて頂き、手術・外来など耳鼻咽喉科の面白さを大いに感じました。

私自身、医師である前に１人の人間として尊敬できる先生方と共にチームの一員として、働けることを嬉しく感じると同時に、チームの力になれるように貢献しようと強く感じております。

まだまだ未熟者ですが、チームの一員として貢献できるように頑張りますので、これからもご指導の程よろしくお願い申し上げます。



姓　　名　大　谷　志　織（Otani Shiori）
卒業年度　平成24年
出 身 校　浜松医科大学
出 身 地　和歌山県
勤 務 先　大阪大学

初めまして。この度、大阪大学耳鼻咽喉科・頭頚部外科に入局致しました大谷 志織と申します。初期研修を東大阪市立総合病院、大阪大学医学部附属病院で１年間ずつ行い、今年４月から引き続き大阪大学医学部附属病院で勤務しております。出身は和歌山県和歌山市で、高校卒業後は静岡県浜松市で大学生活を過ごしました。大学では女子バスケットボール部と軽音部に所属し、非常に楽しい大学生活を送りました。卒業後は大阪に出てきて、そのまま大阪大学に入局させて頂いてます。

専門を決めるにあたって他の診療科とも悩みましたが、私は運良く市中病院と大学病院それぞれで耳鼻咽喉科をローテートすることができ、扱う疾患の幅広さ、老若男女の患者がいること、外科手技だけではなく内科的治療も扱っていることに魅力を感じ、耳鼻咽喉科を選びました。

耳鼻科医として勤務し始めて１ヶ月が経過し、様々な疾患を経験させて頂いていますが、やはりやりがいのある科だと実感しています。まだまだ自分で出来ることが少なく、上級医の先生方に色々と指導して頂きながら、日々新しいことを学び、充実した日々を送っています。これからご迷惑をおかけすることが多々あると思いますが、ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

姓　　名　杉　田　侑　己（Sugita Yuki）
卒業年度　平成25年
出 身 校　関西医科大学
出 身 地　大阪府
勤 務 先　関西医科大学

はじめまして、この度、日本耳鼻咽喉科学会大阪地方部会に入会しました杉田 侑己と申します。この４月より母校である関西医科大学に戻り耳鼻咽喉科医としてスタートを切りました。多忙ではありますが、教育熱心な先輩方のお陰で充実した生活を送っています。

私が将来の職として医師を選んだ理由は、消化器外科医であった祖父、そして耳鼻咽喉科医である父という２人の大きな背中を見て育った事が全てであると言えます。ただ、中学高校とろくすっぽ勉強していないのに「浪人したらなんとかなる。」という甘い考えで予備校生活に突入。そんな考えで受かるはずもなく、２浪したものの見事に全滅しました。疲れてしまった私は滑り止めで合格した薬学部に進学。しかしやはり医師への思いは断ち切る事ができず、薬剤師免許取得後すぐに受験勉強を再開し、幸いにも関西医科大学に拾って頂きました。実に７年間もの遠回りをしてしまいました。

卒後は市中病院で研修をし、さて３年目以降どうするかと考えた際に、外科的にも内科的にもアプローチできて耳・鼻・喉と色々なジャンルを扱える耳鼻咽喉科に進む事に決めました。そして症例も豊富であり、また若手医師が多く雰囲気も良くて活気のある母校を選びました。出身校とは良いもので、研修で外に出たにもかかわらず、本当に温かく迎えて頂き感謝しています。日常診療では困った事にたくさん遭遇しますが、先輩方は何を聞いても丁寧に教えて下さります。決して放ったらかしにせず面倒見がとても良い先生方ばかりで非常に恵まれた職場環境と言えるでしょう。まだまだ駆け出しで未熟者ですが、早く一人前になるために日々精進していきますので、今後とも宜しく御願い致します。

姓　　名　副　島　千　晶（Soejima Chiaki）
卒業年度　平成26年
出 身 校　大阪市立大学
出 身 地　兵庫県
勤 務 先　大阪市立総合医療センター

本年度より日本耳鼻咽喉科学会に入会させていただきました、副島 千晶と申します。大阪市立総合医療センターにて、耳鼻咽喉科１年目として勤務させていただいています。

平成20年に大阪市立大学に入学しました。中学・高校と女子校であったため共学であることにとても戸惑い、運動もしたことがないのにテニス部に入部しました。運動はできるようになりませんでしたが、集団生活や先輩後輩の上下関係を学ぶ機会となりました。

初めて耳鼻咽喉科に興味を持ったのは大学２回生での耳の生理機能の授業でした。授業は一番後ろの席で受けるような学生でしたが、その時の授業はたくさんメモをとった覚えがあります。学生実習で実際の臨床を勉強する機会に、耳・鼻・のどと多様な分野であり小児から成人まで、診断から治療までと一貫した診療ができることに魅力を感じ、将来の志望科として選択することとしました。

６年生の時から実習、研修医のローテートとずっと熱心に指導していただき大阪市立総合医療センターの先生方にはいつもお世話になっています。成長して恩返しができるよう日々勉強していきます。

学生の時は早く働きたいと思い、研修医の時は早く専門へ進みたいと思っていました。研修医を修了しまだ１ヶ月ですが、次は自信を持って診察や治療ができるようになりたいと思っています。まだまだわからないことばかりですが今後ともご指導よろしくお願いします。

姓　　名　竹　村　和　哉（Takemura Kazuya）
卒業年度　平成25年
出 身 校　大阪大学
出 身 地　奈良県
勤 務 先　大阪府立急性期・総合医療センター

今年度より大阪大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科に入局させて頂きました竹村 和哉と申します。初期研修は関西労災病院と大阪大学附属病院を１年ずつローテートし、後期研修は府立急性期・総合医療センターで働かせて頂いております。

学生時代は勉学や部活よりもアルバイトに専念し、貯金して医師免許取得後に１年間海外旅行をしておりました。その後初期研修医となり、最初は耳鼻科ではなく他の科を志望しておりました。しかし、２年目の大阪大学医学部附属病院で耳鼻科をローテートさせて頂いたとき、手技・知識、専門性の高さ、やりがいに興味を持ち、また耳鼻科の先生方が優しく、先生たちにわからないことは何でも聞くことができ、このような先生方のもとで一緒に働きたいと思い入局する決心を致しました。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科医として数週間が経過しました。まだ専門的な知識も少なく、できる手技も少ない状態で、職場の先生方にはご迷惑をお掛けしながら、日々充実した毎日を送っております。

日耳鼻大阪府地方部会の諸先生方には今後とも大変お世話になり、またご迷惑をお掛けすることも多々あるかと存じますが、何卒ご指導・ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

姓　　名　是　松　瑞　樹（Korematsu Mizuki）
卒業年度　平成26年
出 身 校　広島大学
出 身 地　広島県
勤 務 先　大阪府立成人病センター

初めまして。この４月から日本耳鼻咽喉科学会大阪府地方部会に所属させていただくことになりました是松 瑞樹と申します。私は広島生まれの広島育ちで、大学卒業まで大阪はもとより関西とは全く縁もゆかりもありませんでした。初めて広島から出て済生会中津病院で研修をさせていただき、済生会中津病院耳鼻科の東川部長、西川副部長をはじめとする皆様の教育のおかげで、耳鼻科の魅力、そして大阪の魅力を知り、大阪で耳鼻科医として働くことに決めました。

私が耳鼻科に興味を持ったきっかけは、大学５回生の時に実習で耳鼻科を回った時に見た頸部の手術でした。甲状腺半葉切除の手術だったと思うのですが、はっきり言ってそれまで回った科で見た手術では興味深いと思わなかった自分が頸部の解剖の美しさに感動しました。そこから耳鼻科という分野に興味を抱き、調べていくうちに耳鼻科の守備範囲の広さ、手術の多様性、様々な患者さんと関わることができる点などに非常に魅力を感じ、耳鼻科を専門にすることを決意しました。

４月からは大阪府立成人病センターで勤務させていただいております。成人病センターは頭頸部腫瘍に特化した耳鼻科の中でも特殊な病院です。そのため、他の病院ではなかなか診ることのできない症例や、カンファレンスでのハイレベルな討議内容に圧倒されながらも、藤井主任部長を筆頭に温かい先生方の下で充実した頭頸部外科医生活を送っています。ここで学べることを一つでも多く吸収しようと日々精進しています。

未熟者のため、諸先生方には色々とご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、一生懸命頑張っていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

姓　　名　上　野　裕　也（Ueno Yuya）
卒業年度　平成26年
出 身 校　大阪大学
出 身 地　山梨県
勤 務 先　大阪労災病院

本年度より大阪大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科の新医局員となりました上野 裕也と申します。

私は学士編入枠にて大阪大学医学部３年次に入学したため、同学年の先生方とは最大で７歳離れています。それまでは工学部にてソフトウエアを学んでおり、プログラマとして２年間の社会人生活を送る中で、かつて学生時代に思いを馳せていた医学の道を歩むことを決心しました。

さて、私の学生時代（２回目）ですが、習得した工学の知識を生かす場面はほとんどありませんでした。数少ない活躍の場面と言えば、定型文書を一発で目的文書に整形するツールを作ったり、動画や音楽の編集をしたり、競合のない当直表を一発で出力するツールを作ったり、麻雀大会の組み合わせを自動生成するツールを作ったり、といった程度でした。いずれも人に喜んで頂けたことが幸いではありましたが、医学への貢献は少なかったように思います。しかし、これから専門医、大学院など研究に携わる機会も増え、統計やデータ収集・解析等、ソフトウエアが活躍できる場面が多くなるため、非常に楽しみにしております。

私が耳鼻科を選んだ理由は２つあります。１つめは、独自の細かい手技・職人技を身に付けられることです。電子回路作成や工作が好きだったこともあり、耳鼻科領域の細かい仕事は魅力的でした。２つめは、扱う臓器が「物理寄り」であることです。音波や加速度を受容する耳、複雑な構造を持つ鼻副鼻腔、生命に必須の血管・神経が密集して立体構造を形作る頸部は、学生の頃から直感的に自分の頭に入ってくるような感じがしていました。今はまだ、これらのうちどの方面に進みたいというような固定した考えは持たず、広い視点で多くのことを学んでいきたいと考えております。現在所属する大阪労災病院は、その方向性にぴったりの病院であると考えておりますので、たくさんの手術症例、外来症例を経験し、今後の糧としたいと思います。

これから皆さんにお世話になる機会も多々あると思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

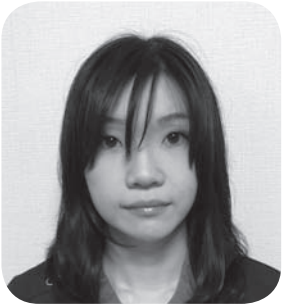
姓　　名　坂　田　正　行（Sakata Masayuki）
卒業年度　平成25年
出 身 校　滋賀医科大学
出 身 地　大阪府
勤 務 先　堺市立総合医療センター

今年度より新たに入会いたしました坂田 正行と申します。

私は、大阪府池田市で高校卒業までの18年間を過ごし、滋賀医科大学で６年間の大学生活を送り、大阪城すぐ傍の大手前病院にて２年間の初期研修を行い、そして現在、堺市立総合医療センターにて耳鼻咽喉科・頭頸部外科のレジデントとして勤務しております。堺市立総合医療センターは昨年７月に新病院に移転したばかりであり、その際に施設や設備なども一新されており、便利で綺麗な職場環境に感謝しながら日々の診療にあたっております。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科医の職務は、単に疾病の治癒だけでなく、聴覚・嗅覚の回復、嚥下・音声の機能向上といった、治療後のQOLの向上も求められると考えます。また、患者様の要望や不安なども多岐に渡り、それらに応え得る柔軟さも同時に求められると考えます。初期研修医の時、そんな難しい診療も明るくこなす先生方のお姿を拝見し、一緒に診療にあたらせていただいたことが、耳鼻咽喉科・頭頸部外科への志を抱くきっかけとなりました。研修医時代の出会いがなければ、耳鼻咽喉科・頭頸部外科への道を進んでいなかったかもしれません。憧れを抱いた先生方に私も続いていけるよう、誠心誠意を尽くして職務を全うしたく思います。

今年の４月から耳鼻咽喉科・頭頸部外科医の一員となり、早１ヶ月が経過しました。各先生方や医療スタッフの方々、特に直属の上司となります長井 美樹先生、原田 祥太郎先生には多大なご迷惑をお掛けしておりますが、失敗を繰り返してもそれらを跳ね返そうという向上心を絶やすことなく、引き続き日々の診療に全力であたりたく思います。浅学非才の身ではございますが、一医療人としてだけでなく一社会人としても成長していけるよう尽力いたしますので、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。稚拙な文章となりましたが、最後までお読みいただきありがとうございました。



姓　　名　小　林　　悠（Kobayashi Haruka）
卒業年度　平成26年
出 身 校　大阪大学
出 身 地　大阪府
勤 務 先　市立豊中病院

この度大阪大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科に入局させていただきました小林 悠と申します。平成26年に大阪大学卒業後は大阪市内の日生病院で初期研修を行い、３年目となった現在は市立豊中病院に勤務しています。

耳鼻咽喉科の道を志すきっかけとなったのは大学時代の臨床実習でした。複数の感覚器の治療に携わる科として漠然とした興味を持って臨んだ実習で、専門とする領域の幅広さ、手術の楽しさを体感し、将来すすむ科として意識するようになりました。初期研修時代は内科への道も考え悩んだ時期もありましたが、内科的疾患の中でも耳鼻科領域に関連する疾患に自然と惹かれる自分に気づき、また小児から高齢者まで老若男女幅広い世代の患者を診ることのできる点も魅力に感じ、耳鼻咽喉科医になることを決めました。専門を決断するにあたって学生の頃から何かと気にかけてくださった先生方、研修中に丁寧かつ熱心にご指導くださった先生方のご厚意には本当に感謝しております。

耳鼻咽喉科の専攻医としてあっという間に１ヶ月が経ちました。知識も技量も足りず、日々自分の未熟さを痛感しながらも、上級医の先生方の温かく熱心なご指導のもとで充実した後期研修を送らせていただいております。まだまだ至らぬところばかりで、諸先生方にはご迷惑をおかけすることも多いかと思いますが、日々精進してまいりますので、何卒ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

姓　　名　松　尾　康　平（Matsuo Kohei）
卒業年度　平成26年
出 身 校　名古屋市立大学
出 身 地　大阪府
勤 務 先　住友病院

はじめまして。今年度４月から大阪大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室に入局させて頂きました松尾 康平と申します。出身は大阪府枚方市で、清風高校を卒業後、大学は名古屋市立大学に進み、その後２年間の初期研修を愛知県の一宮市立市民病院で行い、この度地元大阪に戻ってまいりました。名古屋での学生生活は塾講師のバイトにテニス、アカペラに打ち込みました。初めて名古屋の地を踏んだ時はその食文化を初めとする文化的な違いに多少戸惑いましたが、慣れてくると次第に愛着がわき、とても住みよい地でありました。今では赤だしもおいしくいただけます。そのような学生時代を送る中で、幼少期からお世話になり、親しみを抱いていた耳鼻咽喉科に興味を持ち始めました。首から上の広い範囲を扱い、また人のQOLに深く関わる点が魅力的だと感じました。それまでは開業医の先生方のイメージが強かったのですが、大学や市中病院では手術を行う頭頸部外科医という一面を知り、外科系に興味があった自分にとってはさらに興味が深まりました。卒後初期研修を通しても耳鼻咽喉科の魅力に引き付けられる一方で、将来はやはり地元大阪に戻ってきたいという思いが芽生えておりました。そのような折、見学にうかがわせていただいた大阪大学耳鼻咽喉科では先生方は他県から来た私に対しても大変よくしていただきました。定期的に開いていただいた説明会では様々な先生方のお話しを聞かせていただき、また同期となる仲間の多さにも惹かれ、入局を決意いたしました。

現在は住友病院で服部先生、佐々木先生、小幡先生のご指導の下、日々勉強させていただいております。新しい病院のシステムに不慣れなだけでなく、知識も技術も未熟で諸先生方にはご迷惑をお掛けするばかりで、大変申し訳なく思っております。日々精進し、一日も早く一人前の耳鼻咽喉科医になれるよう努力していく所存です。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

姓　　名　中　島　　崇（Nakajima Takashi）
卒業年度　平成20年
出 身 校　愛知医科大学
出 身 地　大阪府
勤 務 先　ベルランド総合病院

ベルランド総合病院、耳鼻咽喉科・頭頸部外科に所属しております中島 崇です。

初期研修では耳鼻咽喉科をローテートしておらず、後期研修から選択いたしました。

そのため他の耳鼻科研修医よりもスタートラインが遅いですが、その分一所懸命に学んで行こうと思っておりますのでよろしくお願い申しあげます。

耳鼻咽喉科を選択した理由としては、一人の患者を診断学から治療学まで、最初から最後まで診ることができるからです。また、耳鼻咽喉科が受け持つ領域としては聴覚・嗅覚・味覚・平衡覚などの患者のQOLに関係する感覚器官に加え、嚥下や呼吸など生命に直結する器官を支えるとても重要な科と考えております。そのやりがいに惹かれ、耳鼻科の世界に踏み入れることとなりました。そしてこれからその専門医になることを思うと、険しい道ではあると思いますが、心躍っております。

将来志望する分野はまだ決めておらず、今は目の前の疾患の新鮮さ、面白さに酔いしれております。反面、多量の知識を頭に叩き込むのに大変苦労しています。

今後様々な学会に出席し、たくさんの疾患に出会いながら自分の肌にあった分野を決めていこうと考えております。

趣味としてはゴルフをしています。大学からゴルフをはじめ、すっかりゴルフの虜になりました。最初は140以上叩いていたゴルフですが、徐々に上達し４年生から西医体に出場するようになりました。ゴルフのおかげで各大学にも仲間ができ、今でも大学時代の仲間とゴルフをすることができるので、とても感謝しております。この自己紹介を読んでくださっている先生方で、ゴルフをする方がいらっしゃればお声掛け頂けると幸いです。東海周辺であればお薦めのゴルフ場などもご紹介できると思います。

医師としては２年、耳鼻科医としては１ヶ月という短い期間であり、まだまだ未熟で多々ご迷惑をお掛けすることもあるとはございますが、これからもご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い致します。

姓　　名　北　山　一　樹（Kitayama Itsuki）
卒業年度　平成26年
出 身 校　和歌山県立医科大学
出 身 地　大阪府
勤 務 先　JCHO大阪病院

初めまして。平成28年度より大阪大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科に入局させて頂きました北山 一樹と申します。平成26年３月に和歌山県立医科大学を卒業し、同年４月より平成28年３月までJCHO大阪病院（旧厚生年金病院）にて初期研修を行い、同年４月から初期研修に引き続きJCHO大阪病院で耳鼻咽喉科レジデントとして勤務させて頂いております。

研修医の頃は他の診療科との選択に悩みましたが、初期研修２年目で耳鼻咽喉科をローテートし、扁桃腺炎や副鼻腔炎などのcommon diseaseに始まり、当病院の特色でもある音声領域での診断・治療の奥深さに大変魅力を感じ耳鼻咽喉科を志望いたしました。

JCHO大阪病院では外来診療および病棟管理、手術症例を担当させて頂いております。研修医でローテートしていた際には病棟管理、ENoG等の諸検査、上級医の先生方の下で甲状軟骨形成術などの専門性の高い手術を始め多彩な手術症例を経験させて頂きました。時には外来診療や口蓋扁桃摘出術などの執刀を行う機会を頂き、充実した初期研修生活を送らせていただきました。

レジデントとして新たな生活が始まってからは外来の日数も増え、耳鼻咽喉科領域の多種多様な症例の中で病歴および様々な検査結果を組み合わせて治療方針を計画する難しさに常々圧倒されておりますが、先生方の熱心なご指導の下で日々勉強させて頂き毎日大変充実した日々を送らせて頂いております。私が毎日の業務に戸惑いつつも新たな知識・技術との出会いに胸を高鳴らせて日々過ごせている事は、なにより諸先生方の温かいご支援があってのことであり、この場を借りて御礼を申し上げます。

まだまだ至らない点も多く諸先生方にご迷惑おかけする事も多々あるかとは存じますが、ご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

補聴器相談医名簿（大阪府地方部会所属）

氏　名	勤　務　先	所在地	電　話
愛　場　庸　雅	大阪市立総合医療センター	大 阪 市	06－6929－1221
青　木　　基	青木医院	大 阪 市	06－6351－7155
赤　城　ゆかり	あかぎ耳鼻咽喉科	吹 田 市	06－6337－0050
浅　井　英　世	浅井耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6696－3363
朝　倉　治　美	朝倉耳鼻咽喉科	箕 面 市	072－723－8685
芦　田　健太郎	芦田医院	川 西 市	072－794－5280
天　野　章　子	あまの耳鼻咽喉科	八 尾 市	072－922－8926
天　野　かおり	若草第一病院	東大阪市	072－988－1409
天　野　　一	あまの耳鼻咽喉科	八 尾 市	072－922－8926
荒　井　　潤	あらい耳鼻咽喉科	泉佐野市	072－462－3387
荒　木　南都子	大阪医科大学附属病院	高 槻 市	072－683－1221
在　田　理　香	第二東和会病院	高 槻 市	072－674－1008
有　本　啓　恵	ありもと耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－4253－3737
有　賀　秀　治	有賀耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6969－8877
池　上　彰　博	池上耳鼻咽喉科	高 石 市	072－262－4151
池　田　　進	池田耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6731－4187
池　田　利　夫	池田耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6928－3741
井　口　広　義	大阪市立大学医学部附属病院	大 阪 市	06－6645－2121
石　川　雅　洋	いしかわ耳鼻咽喉科クリニック	大 阪 市	06－6322－6807
石　田　安　代	いしだ耳鼻咽喉科	門 真 市	072－881－9016
伊集院　隆　宏	千船病院	大 阪 市	06－6471－9541
櫟　原　健　吾	櫟原医院	大 阪 市	06－6661－4532
櫟　原　茂　之	櫟原医院	高 槻 市	072－694－7609
櫟　原　崇　宏	大阪医科大学附属病院	高 槻 市	072－683－1221
伊　東　真　人	いとう耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－7504－6745
稲　岡　孝　敏	いなおか耳鼻咽喉科	寝屋川市	072－880－3387
乾　　崇　樹	大阪医科大学附属病院	高 槻 市	072－683－1221
井　上　克　彦	井上耳鼻咽喉科	枚 方 市	072－840－3430
井　上　俊　哉	いのうえ耳鼻咽喉科	枚 方 市	072－834－5530
今　井　貴　夫	大阪大学医学部附属病院	吹 田 市	06－6879－5111
今　中　政　支	いまなか耳鼻咽喉科	高 槻 市	072－676－1187
岩　井　詔　子	耳鼻咽喉科岩井クリニック	枚 方 市	072－867－1810
岩　井　　大	関西医科大学附属病院	枚 方 市	072－804－0101
岩　田　彩　子	いわた耳鼻咽喉科クリニック	大 阪 市	06－6390－3377
岩　田　伸　子	いわた耳鼻咽喉科・アレルギー科クリニック	大 阪 市	06－6928－0234
岩　橋　利　彦	大阪大学医学部附属病院	吹 田 市	06－6879－5111
上　川　保　廣	上川耳鼻咽喉科	豊 中 市	06－6846－8787
上　杉　康　夫	関西福祉科学大学	柏 原 市	072－978－0088

氏　　名	勤　務　先	所在地	電　　話
上　田　　大	あべのハルカス　坂本耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6623－0730
植　村　善　則	植村耳鼻咽喉科	松 原 市	072－333－8741
宇　野　敦　彦	大阪府立急性期・総合医療センター	大 阪 市	06－6692－1201
宇　野　吉　裕	宇野耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6709－7322
梅　本　匡　則	梅本耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6924－3387
鵜　山　昭　雄	鵜山耳鼻咽喉科医院	松 原 市	072－335－2105
鵜　山　太　一	鵜山耳鼻咽喉科医院	松 原 市	072－335－2105
老　木　浩　之	hi-mex耳鼻咽喉科サージクリニック老木医院	和 泉 市	0725－47－3113
大　崎　康　宏	大阪府立母子健康総合医療センター	和 泉 市	0725－56－1220
大　島　一　郎	大島耳鼻咽喉科	豊 中 市	06－6849－8733
太　田　有　美	大阪大学医学部附属病院	吹 田 市	06－6879－5111
大　西　かよ子	大西耳鼻咽喉科医院	大 阪 市	06－6704－4848
大　西　純　夫	おおにし耳鼻咽喉科医院	枚 方 市	072－855－4520
大　西　博　昭	岡部耳鼻咽喉科医院	大 阪 市	06－6709－4849
大　屋　清　二	大屋耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6702－8659
岡　坂　利　章	みなせ耳鼻咽喉科	島 本 町	075－963－2287
岡　﨑　鈴　代	大阪大学医学部附属病院	吹 田 市	06－6879－5111
岡　田　　優	国分病院	柏 原 市	072－978－6072
岡　庭　亜　弥	岩野耳鼻咽喉科サージセンター	豊 中 市	06－6862－2910
岡　本　秀　彦	大阪大学医学部附属病院	吹 田 市	06－6879－5111
岡　本　雅　典	岡本耳鼻咽喉科	東大阪市	06－6753－8741
奥　西　真　帆	千船病院	大 阪 市	06－6471－9541
奥　野　吉　昭	おくの耳鼻咽喉科	泉佐野市	072－462－3341
奥　村　隆　司	奥村耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6571－3387
柿　木　裕　史	柿木耳鼻咽喉科	河内長野市	0721－50－4649
柿　本　晋　吾	柿本耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6936－7033
梶　川　　泰	市立岸和田市民病院	岸和田市	072－445－1000
葛　原　敏　樹	葛原耳鼻咽喉科	阪 南 市	072－471－6022
加　藤　匠　子	加藤耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6719－8733
加　藤　伸　一	加藤耳鼻咽喉科医院	堺　　市	072－277－8605
加　藤　真　子	かとう耳鼻咽喉科	枚 方 市	072－852－8733
加　藤　　寛	耳鼻咽喉科かとう医院	熊 取 町	072－452－8733
金　井　理　絵	北野病院	大 阪 市	06－6312－1221
金　井　龍　一	かない耳鼻咽喉科	豊 中 市	06－6854－8733
金　沢　敦　子	大阪医科大学附属病院	高 槻 市	072－683－1221
金　田　直　子	関西医科大学附属病院	枚 方 市	072－804－0101
金　丸　眞　一	北野病院	大 阪 市	06－6312－1221
鎌　澤　孝　子	かまざわ耳鼻咽喉科	八 尾 市	072－943－1787
川　上　友　美	行岡病院	大 阪 市	06－6371－9921
川　上　理　郎	大阪府済生会吹田病院	吹 田 市	06－6382－1521

氏　名	勤　務　先	所在地	電　話
川　﨑　英　子	かわさき耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6180－2400
川　嵜　良　明	川嵜耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6969－3322
川　島　佳代子	大手前病院	大 阪 市	06－6941－0484
神　原　留　美	市立吹田市民病院	吹 田 市	06－6387－3311
菊　岡　政　久	蛭沼耳鼻咽喉科医院	東大阪市	072－981－3517
岸　　邦　子	桝谷耳鼻咽喉科クリニック	大 阪 市	06－6706－3122
北　尻　雅　則	関西医科大学天満橋総合クリニック	大 阪 市	06－6943－2260
北　西　　剛	きたにし耳鼻咽喉科	守 口 市	06－6902－4133
北　野　睦　三	近畿大学医学部附属病院	大阪狭山市	072－366－0221
北　村　　健	北村耳鼻咽喉科	池 田 市	072－754－8733
木　下　彩　子	大阪市立総合医療センター	大 阪 市	06－6929－1221
久　内　一　史	きゅうない耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－4399－5971
京　本　良　一	京本耳鼻咽喉科	寝屋川市	072－830－0087
清　川　裕　美	中嶋、清川とりかいクリニック	摂 津 市	072－650－3636
楠　木　　誠	中村耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6925－7833
久　保　武　志	くぼ耳鼻咽喉科クリニック	大 阪 市	06－6131－5588
久保井　敬　之	久保井耳鼻咽喉科	摂 津 市	072－625－4133
久　門　正　義	耳鼻咽喉科くもん医院	四條畷市	072－877－3387
倉　増　俊　宏	くらます耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6343－3387
小　池　　薫	小池耳鼻咽喉科クリニック	貝 塚 市	072－423－8741
小　泉　敏　三	近畿大学医学部附属病院	大阪狭山市	072－366－0221
康　　勲	康耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6751－4000
合　田　　薫	藍野病院	茨 木 市	072－627－7611
上　月　景　之	上月耳鼻咽喉科医院	豊 中 市	06－6846－8733
河　野　幹　子	河野耳鼻咽喉科クリニック	東大阪市	072－967－0057
後　藤　和　彦	後藤耳鼻咽喉科	寝屋川市	072－832－7060
後　藤　和　彦	ごとう耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6643－1133
小　林　正　明	小林耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6779－8239
小　林　政　美	耳鼻咽喉科こばやしクリニック	泉佐野市	072－467－3387
米　田　元　胤	こめだ耳鼻咽喉科	堺　　市	072－296－3341
近　藤　千　雅	こんどう耳鼻咽喉科クリニック	大 阪 市	06－6973－3387
齋　藤　和　也	近畿大学医学部附属病院	大阪狭山市	072－366－0221
坂　　哲　郎	さか耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6957－1187
坂　　直　樹	さか耳鼻咽喉科	吹 田 市	06－6319－8741
阪　上　博　史	阪上耳鼻咽喉科	茨 木 市	072－622－2558
榊　　徳　子	阿部耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6692－1669
榊　原　淳　二	榊原耳鼻咽喉科クリニック	吹 田 市	06－6831－3387
坂　倉　　淳	済生会茨木病院	茨 木 市	072－622－8651
坂　下　哲　史	さかした耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6710－4187
坂　本　平　守	あべのハルカス　坂本耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6623－0730

氏　　名	勤　務　先	所在地	電　　話
阪　本　浩　一	大阪市立大学医学部附属病院	大 阪 市	06－6645－2121
櫻　井　幹　士	桜井耳鼻咽喉科	河内長野市	0721－54－5771
硲　田　猛　真	りんくう総合医療センター	泉佐野市	072－469－3111
佐々木　崇　博	住友病院	大 阪 市	06－6443－1261
佐々木　　知	佐々木耳鼻咽喉科クリニック	茨 木 市	072－636－6650
佐々木　良　二	NTT西日本大阪病院	大 阪 市	06－6773－7320
薩　摩　好　彦	よしひこ耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6477－6668
佐　藤　　崇	大阪大学医学部附属病院	吹 田 市	06－6879－5111
里　見　文　男	里見耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6655－6675
澤　田　亜也子	さわだクリニック	大 阪 市	06－6776－8322
澤　田　　達	酒井耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6933－1133
芝　埜　　彰	大阪回生病院	大 阪 市	06－6393－6234
島　田　健　一	しまだ耳鼻咽喉科	羽曳野市	072－954－3301
島　田　　純	しまだ耳鼻咽喉科医院	堺　　市	072－292－2395
島　野　卓　史	島野耳鼻咽喉科	東大阪市	06－6721－3311
清　水　順　一	星田南病院	交 野 市	072－891－3500
下　條　信　次	下條耳鼻咽喉科医院	大 阪 市	06－6932－8711
真　貝　佳代子	市立吹田市民病院	吹 田 市	06－6387－3311
眞　銅　昌二郎	眞銅耳鼻咽喉科医院	藤井寺市	072－955－4633
杉　浦　　緑	杉浦耳鼻咽喉科・アレルギー科	大 阪 市	06－6773－8741
杉　丸　忠　彦	すぎまるクリニック	大 阪 市	06－6760－3387
杉　山　絢　子	杉山耳鼻咽喉科医院	高 石 市	072－264－5036
鈴　木　　学	大阪医科大学附属病院	高 槻 市	072－683－1221
鈴　本　正　樹	すずもと耳鼻咽喉科	泉 南 市	072－484－2777
須　永　壯　一	耳鼻咽喉科すながクリニック	吹 田 市	06－6310－8711
角　南　貴司子	大阪市立大学医学部附属病院	大 阪 市	06－6645－2121
須　波　浩　之	すなみクリニック	河内長野市	0721－62－8711
妙　中　啓　子	たえなか耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6621－1376
高　島　凱　夫	京橋耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6921－0242
高　野　さくらこ	大阪市立大学医学部附属病院	大 阪 市	06－6645－2121
高　野　啓　江	たかの耳鼻咽喉科	藤井寺市	0729－52－3387
高　橋　佳　文	たかはし耳鼻咽喉科クリニック	豊 中 市	06－6841－3311
高　安　幸　恵	星ヶ丘医療センター	枚 方 市	072－840－2641
高　山　雅　裕	たかやま耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6678－3387
高　山　靖　史	たかやま耳鼻咽喉科	大 東 市	072－889－1787
滝　本　泰　光	市立吹田市民病院	吹 田 市	06－6387－3311
武　嶋　寛　剛	たけしま耳鼻咽喉科医院	東大阪市	072－986－3341
竹　林　恵　子	竹林医院	大 阪 市	06－6340－1181
竹　本　市　紅	耳鼻咽喉科竹本クリニック	高 石 市	072－272－3387
武　本　憲　彦	大阪大学医学部附属病院	吹 田 市	06－6879－5111

氏　　名	勤　務　先	所在地	電　　話
竹　山　　豊	竹山耳鼻咽喉科	堺　　市	072－239－3341
田　中　朝　子	第一東和会病院	高 槻 市	072－671－1008
田　中　　治	田中耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6678－8787
田　中　由基夫	耳鼻咽喉科　田中医院	大 阪 市	06－6301－6783
田　辺　智　子	田辺耳鼻咽喉科	豊 中 市	06－6338－7319
田　邊　英　徳	田辺耳鼻咽喉科	八 尾 市	072－998－8741
田　渕　恵　子	大阪府済生会吹田病院	吹 田 市	06－6382－1521
田　村　隆　之	タムラ耳鼻咽喉科	吹 田 市	06－6339－1133
田　村　　学	おおさか往診クリニック	吹 田 市	06－6152－9566
田　矢　直　三	田矢耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6658－5001
近　野　哲　史	市立岸和田市民病院	岸和田市	072－445－1000
竹　本　恵美子	おくだ耳鼻咽喉科	堺　　市	072－260－3387
塚　本　康　広	塚本耳鼻咽喉科医院	大 阪 市	06－6474－9000
津　川　善　彦	津川耳鼻咽喉科医院	大 阪 市	06－6791－3741
辻　　雄一郎	富田つじ耳鼻咽喉科	高 槻 市	072－696－3633
辻　　竜　平	辻耳鼻咽喉科医院	守 口 市	06－6901－3288
蔦　　佳　明	南大阪蔦耳鼻咽喉科	堺　　市	072－363－3387
津　田　　武	大阪大学医学部附属病院	吹 田 市	06－6879－5111
津　田　　守	津田耳鼻咽喉科クリニック	吹 田 市	06－6338－3387
恒　川　恵　治	耳鼻咽喉科恒川医院	東大阪市	072－964－1587
恒　川　宜　子	耳鼻咽喉科恒川医院	東大阪市	072－964－1587
鶴　田　至　宏	鶴田耳鼻咽喉科クリニック	八 尾 市	072－997－4187
鶴　原　秀　晃	鶴原耳鼻咽喉科	枚 方 市	072－897－2433
寺　尾　恭　一	てらお耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6655－0187
寺　西　裕　一	大阪市立大学医学部附属病院	大 阪 市	06－6645－2121
徳　原　靖　剛	とくはら耳鼻咽喉科	東大阪市	06－6720－3387
栩　野　理　恵	とちの耳鼻咽喉科クリニック	東大阪市	06－4307－3825
朝　永　康　徳	ともなが耳鼻咽喉科	吹 田 市	06－4861－3387
豊　田　孝　行	佐々木耳鼻咽喉科クリニック	茨 木 市	072－636－6650
中　井　　健	小西耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6351－3387
永　井　香　織	ながい耳鼻咽喉科	茨 木 市	072－645－3387
永　田　基　樹	ながた耳鼻咽喉科クリニック	東大阪市	06－6782－3387
中　出　多　子	なかで耳鼻咽喉科	岸和田市	072－493－3392
中　野　智　昭	大北メディカルクリニック	大 阪 市	06－6344－0380
中　原　　啓	りんくう総合医療センター	泉佐野市	072－469－3111
長　原　昌　萬	長原耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6976－8733
中　村　晶　彦	中村耳鼻咽喉科	堺　　市	072－240－0087
中　村　正　三	中村耳鼻咽喉科	東大阪市	06－6745－1427
中　村　　恵	大阪府立母子健康総合医療センター	和 泉 市	0725－56－1220
中　山　和　子	あいばクリニック岸和田　あいばクリニック	岸和田市	072－422－1306

氏　　名	勤　務　先	所在地	電　　話
中　山　堯　之	春山会　中山耳鼻咽喉科・気管食道科	岸和田市	072－422－3777
浪　花　有　紀	南医院	堺　　市	072－241－6661
西　池　季　隆	大阪労災病院	堺　　市	072－252－3561
西　浦　弘　志	にしうら耳鼻咽喉科	寝屋川市	072－830－1133
西　田　明　子	北野病院	大 阪 市	06－6312－1221
西　田　尚　司	西田耳鼻咽喉科	松 原 市	072－338－3341
西　田　高　也	西田医院	泉佐野市	072－462－3356
西　村　　洋	大阪医療センター	大 阪 市	06－6942－1331
西　村　将　人	にしむら耳鼻咽喉科クリニック	大 阪 市	06－6761－0265
西　本　明　美	西本耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6606－3317
丹　生　真理子	丹生医院	大 阪 市	06－6581－0090
二　村　吉　継	二村耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6622－2687
根　来　　篤	ねごろ耳鼻咽喉科クリニック	阪 南 市	072－471－3387
野　井　　理	野井耳鼻咽喉科	豊 中 市	06－6873－4133
野　田　和　裕	のだ耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6793－8733
野之口　英　予	野之口耳鼻咽喉科	和 泉 市	0725－41－8733
野　村　文　恵	大阪府済生会中津病院	大 阪 市	06－6372－0333
萩　森　伸　一	大阪医科大学附属病院	高 槻 市	072－683－1221
橋　内　巧　弘	橋内耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－4257－3387
長谷川　寛　治	長谷川耳鼻咽喉科医院	茨 木 市	072－633－7145
長谷川　　哲	長谷川耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6767－2484
長谷川　太　郎	長谷川耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6582－3387
羽　田　史　子	関西電力病院	大 阪 市	06－6458－5821
八　川　公　爾	ＰＬ病院	富田林市	0721－24－3100
八　谷　和　孝	あさひ耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6452－3387
八　田　千　広	はった耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6453－4187
服　部　賢　二	住友病院	大 阪 市	06－6443－1261
馬　場　一　泰	大阪歯科大学	大 阪 市	06－6910－1081
馬　場　謙　治	馬場耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6686－3387
濱　田　聡　子	関西医科大学香里病院	寝屋川市	072－832－5321
浜　田　節　子	浜田医院	枚 方 市	072－831－0202
林　　伊　吹	いぶき耳鼻咽喉科	豊 中 市	06－6849－3387
林　　治　博	林耳鼻咽喉科	大阪狭山市	072－365－4888
林　　与志子	勝田クリニック	茨 木 市	072－632－7228
端　山　昌　樹	大阪大学医学部附属病院	吹 田 市	06－6879－5111
速　水　康　介	近畿大学医学部附属病院	大阪狭山市	072－366－0221
原　田　博　文	原田耳鼻咽喉科	羽曳野市	072－953－7384
原　田　昌　彦	原田耳鼻咽喉科医院	堺　　市	072－266－0157
東　川　雅　彦	大阪府済生会中津病院	大 阪 市	06－6372－0333
東　野　正　明	大阪医科大学附属病院	高 槻 市	072－683－1221

氏　名	勤　務　先	所在地	電　話
東　野　昌　子	ひがしの耳鼻咽喉科	泉佐野市	072－464－8741
樋　上　訓　子	ひがみ耳鼻咽喉科クリニック	堺　市	072－237－2021
疋　田　紀　子	富田林病院	富田林市	0721－29－1121
平　塚　康　之	大阪赤十字病院	大阪市	06－6774－5111
廣　瀬　正　幸	大阪府立母子健康総合医療センター	和泉市	0725－56－1220
福　瀬　信　也	フクセ耳鼻咽喉科	大阪市	06－6683－8793
福　森　清　子	福森医院	交野市	072－891－4880
藤　田　修　治	高槻赤十字病院	高槻市	072－696－0571
藤　田　　岳	近畿大学医学部附属病院	大阪狭山市	072－366－0221
藤　田　信　哉	日生病院	大阪市	06－6543－3581
藤　原　良　平	近畿大学医学部附属病院	大阪狭山市	072－366－0221
古　谷　博　之	フルヤ耳鼻科	豊中市	06－6336－4133
細　野　研　二	日生病院	大阪市	06－6543－3581
前　田　秀　典	千里中央ENTクリニック	豊中市	06－6155－3387
正　本　建　夫	まさもとクリニック	大阪市	06－6791－3315
増　村　千佐子	市立吹田市民病院	吹田市	06－6387－3311
松　下　直　樹	大阪市立大学医学部附属病院	大阪市	06－6645－2121
松　田　美　貴	松田クリニック	藤井寺市	072－931－5551
松　村　　光	松村医院	茨木市	072－622－2014
松　本　達　始	松本耳鼻咽喉科	池田市	072－754－4187
松　山　浩　吉	松山耳鼻咽喉科	東大阪市	06－6784－8871
丸　川　恭　子	丸川耳鼻咽喉科	大阪市	06－6944－0006
丸　山　ひろみ	まるやま耳鼻咽喉科	吹田市	06－6170－8126
三　木　淑　子	大阪市立大学医学部附属病院	大阪市	06－6645－2121
水　上　健之亮	水上クリニック	大阪市	06－6768－5858
道　場　隆　博	大阪大学医学部附属病院	吹田市	06－6879－5111
南　　豊　彦	みなみ耳鼻咽喉科クリニック	柏原市	072－970－3387
南　　裕　隆	みなみ耳鼻咽喉科クリニック	岸和田市	072－428－3341
南　谷　隆　明	いづみクリニック耳鼻咽喉科	阪南市	072－472－5551
南　谷　肇　子	いづみクリニック耳鼻咽喉科	阪南市	072－472－5551
峰　晴　昭　仁	みねはる耳鼻咽喉科	高槻市	072－662－3387
箕　輪　靖　弘	野上病院	泉南市	072－484－0007
宮　崎　　信	耳鼻咽喉科・アレルギー科　まことクリニック	四條畷市	072－878－4187
宮　崎　裕　子	みやざきクリニック	大阪市	06－6567－8781
宮　本　一　良	宮本耳鼻咽喉科	東大阪市	072－984－8733
三　好　敏　之	三好耳鼻咽喉科	池田市	072－761－8023
宗　田　由　紀	大村耳鼻咽喉科	島本町	075－963－2080
宗　本　由　美	ザ・北浜タワー耳鼻咽喉科皮膚科クリニック	大阪市	06－4707－8700
村　本　大　輔	村本耳鼻咽喉科	大阪狭山市	072－365－1733
望　月　裕　美	ならむらクリニック	大阪市	06－6205－3341

氏　　名	勤　務　先	所在地	電　　話
本　山　壮　一	本山耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6555－9716
森　　京　子	市立ひらかた病院	枚 方 市	072－847－2821
森　　克　己	もり耳鼻咽喉科	堺　　市	072－250－8669
森　　淳　子	多根総合病院	大 阪 市	06－6581－1071
森　　靖　子	やすこ耳鼻咽喉科クリニック	豊 中 市	06－6155－3387
森　口　　誠	森口耳鼻咽喉科	枚 方 市	072－835－7533
森　﨑　　昇	森崎耳鼻咽喉科	堺　　市	072－232－8733
森　鼻　哲　生	大阪医療センター	大 阪 市	06－6942－1331
森　脇　計　博	森脇耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6700－6400
文　珠　正　大	文珠クリニック	堺　　市	072－288－3033
柳　田　昌　宏	やなぎだ耳鼻咽喉科	東大阪市	06－6748－2829
矢　野　純　也	やの耳鼻咽喉科	松 原 市	072－339－3387
山　岡　俊　哉	山岡耳鼻咽喉科	羽曳野市	072－950－5302
山　口　浩　子	竹田クリニック	松 原 市	072－332－8118
山　崎　典　子	山崎医院	大 阪 市	06－6971－3436
山　下　大　介	やました耳鼻咽喉科クリニック	泉佐野市	072－462－3341
山　下　麻　紀	JCHO大阪病院	大 阪 市	06－6441－5451
山　田　　理	おがわ耳鼻咽喉科	豊 中 市	06－6333－3319
山　田　　佳	大阪市立大学医学部附属病院	大 阪 市	06－6645－2121
山　田　浩　二	やまだ耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－4302－3387
山　戸　章　行	大手前病院	大 阪 市	06－6941－0484
山　本　博　史	やまもと耳鼻咽喉科	枚 方 市	072－864－1171
山　本　祐　三	耳鼻咽喉科・アレルギー科山本医院	寝屋川市	072－825－8881
吉　岡　揮　久	吉岡耳鼻咽喉科	大阪狭山市	072－368－1876
吉　田　淳　一	吉田耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6773－6565
吉　田　尚　生	大阪赤十字病院	大 阪 市	06－6774－5111
吉　田　季　来	北野病院	大 阪 市	06－6312－1221
李　　英　煥	りー耳鼻咽喉科	吹 田 市	06－6878－3304
若　生　美　紀	前田クリニック耳鼻咽喉科	猪名川町	072－766－7133
和　田　匡　史	岩野耳鼻咽喉科サージセンター	豊 中 市	06－6862－2910
和　田　忠　彦	関西電力病院	大 阪 市	06－6458－5821
和　田　安　弘	わだ耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6397－8733
和　田　佳　郎	和田耳鼻咽喉科医院	大 阪 市	06－6691－4075
渡　辺　猛　世	渡辺耳鼻咽喉科	大 阪 市	06－6981－7000
渡　邊　尚　代	中村耳鼻咽喉科	高 槻 市	072－693－0372
渡　邉　大　樹	松下記念病院	守 口 市	06－6992－1231

ENT FAX

一般社団法人 日本耳鼻咽喉科学会
理事長　久　育男

日耳鼻発第137号　　平成28年３月15日

平成27年度　日本耳鼻咽喉科学会
福祉医療・乳幼児担当者全国会議報告

平成28年１月31日（日）（於：東海大学校友会館）
担当理事：伊藤壽一　　委員長：守本倫子

挨拶：久　育男　理事長

４月から障害者差別解消法が施行されることに伴い、聴覚障害者への差別が解消されていく方向になるよう、一層のご尽力をお願いしたいとのご挨拶が述べられた。

開会の辞：伊藤　壽一　担当理事

新生児聴覚スクリーニング、小児人工内耳適応基準の改訂による影響、その他１歳６カ月児健診、３歳児健診の調査など、今後も力を入れていくとのご挨拶が述べられた。

平成28年度事業計画

委員長より、平成27年度の当委員会の事業計画が資料に基づき行われた。

平成26年度３歳児聴覚健診・１歳６カ月児健診における聞こえの確認方法に関するアンケート調査報告

- ３歳児聴覚健診

アンケート内容は昨年と同様であり、資料に基づいて地区ごとの状況が報告された。３歳児検診で精密検査に回された例は全国19,286名、難聴ありは

702名（3.6％：前年5.3％）であった。さらにそのうち両側難聴であった例は231名（32.9％：前年43.2％）であった。難聴の種別が確定したのは121名であり、両側感音難聴は29名、と前年と大きな変化は認められていない。新生児聴覚スクリーニングの普及との関連が示唆されている。

- １歳６カ月児健診

　自治体が主体の健診となっていることが多く、集団健診240、個別健診７の市町村で行われていた。日耳鼻リーフレットを導入した自治体数はあまり変化ないものの、今後導入予定の自治体も増加してきている。１歳６カ月児の聴覚検査は難しいため、積極的にリーフレットの活用を周知していく必要があると報告された。

平成27年度（平成26年度分）人工内耳実態調査報告

７歳未満の人工内耳症例は465名（平成24年度321名）と増加していた。１歳６ヵ月未満での手術症例が66名（平成24年度24名）と大きく増加していたが、人工内耳適応基準改訂で年齢が低下したことでの影響は概ね良好であった。さらに両耳装用症例が増加してきたことが報告された。

新生児聴覚スクリーニング後の精密検査機関リストの改定・実態調査（平成26年度分）報告

新生児聴覚スクリーニング後に精密検査機関を受診した０歳児は、平成26年度は4,488名、うち両側難聴は1,201名、療育開始につながったのが730名であった。平成24年度より300名ほど受診者が増加したが、発見された人数はほぼ同じであった。精密検査機関リストの改定にあたり、基準が公表（日耳鼻107,522－、2004年）されている。その他に地域性なども加味することがあると報告された。

１歳児、２歳児の精密聴力検査機関実態調査報告（平成26年度分）

2014年に難聴の疑いにて精密聴力検査機関を受診した１歳児、２歳児について調査を行い、165の精密検査機関（回答率100％）より回答を得た。初診は１歳児1,148名、２歳児1,124名、うち一側または両側の難聴は１歳児35％、２歳児21％であった。2010年出生児の過去のデータと検討すると両側難聴が発見され

る頻度は、新生児聴覚スクリーニングで0.11％、２歳児で0.02％、３歳で0.003％であった。新生児聴覚スクリーニングの受検率を上げるともに、後天性・進行性難聴の啓発を行い、健診で早期に発見されるように取り組む必要があることが報告された。

新生児聴覚スクリーニングへの行政のとりくみ（厚生労働省　雇用均等・児童家庭局　母子保健課　一瀬篤課長）

平成12年に新生児聴覚スクリーニングのモデル事業が開始され、平成17年よりすべての県に補助金が出されるようになったものの、平成19年に一般財源化し、市区町村事業に移行してから、自治体に対しての現状調査を行ってこなかった。このため、平成27年度にすべての市区町村に対して新生児聴覚スクリーニングの実施について調査した結果について報告があった。（近日公表される予定とのこと）。

閉会の辞：伊藤　壽一　担当理事

全国の乳幼児担当者に例年調査をお願いしていることについての謝辞があった。乳幼児委員会として今後も引き続き調査を行っていき、厚労省とも連携をとりながら難聴児の早期発見のために健診や新生児聴覚スクリーニングを充実させていく予定である。

当日の資料については全国会議出席者がお持ちですので、詳しくはそれをご覧いただくようお願いいたします。

日耳鼻発第138号　　平成28年３月15日

平成27年度　日本耳鼻咽喉科学会
産業・環境保健委員会全国委員長会議報告

平成28年１月30日（土）（於：東海大学校友会館）
担当理事：原　　晃　　委員長：佐藤宏昭

出席者：久理事長、原担当理事、佐藤委員長、委員３名、
各地方部会委員長他53名。

会議に先立ち、久理事長から挨拶があった。
杉原三郎・鈴鹿有子両委員の司会により、以下のごとく会議が進められた。

1. 特別講演
「労働衛生行政の動向について」
厚生労働省労働基準局安全衛生部労働衛生課長　　武田　康久
労働衛生行政の現状および平成27年度から新たに導入されたストレスチェック制度について講演された。制度の狙い、ストレスチェック実施に係る流れとその際の注意点について解説があった。

2. 日耳鼻産業・環境保健委員会報告
佐藤委員長から、産業・環境保健講習会（騒音性難聴の部）実施報告ならびに騒音性難聴担当医名簿更新の依頼が行われた。和田委員から小規模事業所における騒音性難聴防止のための委員会活動として、産業保健相談員申請に関するアンケート報告があった。原担当理事から、厚生労働省との折衝の現状報告と今後の方向性についての説明があった。

3. 地方部会産業・環境保健委員会報告
埼玉県地方部会武石委員、石川県地方部会上出委員長、兵庫県地方部会栗

花落委員から各県における平成27年度の地方部会産業・環境保健委員会活動報告があった。

日耳鼻発第139号　　平成28年３月15日

平成27年度　日本耳鼻咽喉科学会
福祉医療・成人老年委員全国会議報告

平成28年１月24日（土）（於：東海大学校友会館）
担当理事：髙橋　姿　　委員長：田山二朗

挨拶　　久　育男　　理事長
開会の辞　　髙橋　姿　担当理事

報告事項　　田山二朗　　委員長
平成27年度事業報告と平成28年度事業計画

講　演　　司会　　髙橋　姿　担当理事
Ⅰ「障害者差別解消法　―基本方針のあらましについて―」
厚生労働省　社会・援護局　障害保険福祉部企画課
課長補佐　小牟禮まゆみ

1. 経緯
平成18年12月13日　第61回国連総会において障害者権利条約を採択
平成19年９月28日　日本による障害者権利条約の署名
平成13年６月５日　障害者基本法改正
平成25年６月26日　障害者差別解消法　公布・一部施行
平成28年４月１日　障害者差別解消法施行予定

2. 障害者差別解消法の概要
①基本原則　差別の禁止

第１項：障害を理由とする差別等の権利侵害行為の禁止

第２項：社会的障壁の除去を怠ることによる権利侵害の防止

第３項：国による啓発・知識の普及を図るための取り組み

②差別を解消するための措置

不当な差別的取り扱いの禁止：国・地方公共団体や事業者に法的義務

合理的配慮の提供：国・地方公共団体等に法的義務、事業者に努力義務

実効性の確保ために、法務大臣による事業者に対する報告聴取、助言、指導、勧告を行う。

③差別を解消するための支援措置

＊相談・紛争解決の体制整備

＊障害者差別解消支援地域協議会における関係機関等の連携

＊普及・啓発活動の実施

＊国内外における差別および差別解消に向けた取り組みに関わる情報の収集、整理及び提供

Ⅱ「医療機関従事者向けの対応指針について」

厚生労働省　医政局総務課　企画法令係長　吉田　啓

1. 対象となる障害者：身体障害、知的障害、精神障害（発達障害を含む)、その他の心身の機能の障害がある者であって、障害及び社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にあるもの。
2. 対象となる医療関係事業者：「病院」「診療所」「助産所」「調剤を実施する薬局」
3. 不当な差別的取り扱い：障害者に対して、正当な理由なく、障害を理由として、財・サービスや各種機会の提供を拒否すること、提供に当たって場所や時間帯などを制限すること、障害者でない者に対しては付けない条件を付けることなどにより、障害者の権利利益を侵害することは、不当な差別的取扱いとして禁止される。
4. 「正当な理由」があると判断した場合：不当な差別的取扱いであるのかどうかの判断には、その取扱いを行う正当な理由の有無が重要となる。正当な理由に相当するのは、障害者に対して、障害を理由として、財・サービスや各種機会の提供を拒否するなどの取扱いが客観的に見て正当な目的の下に行われ

たものであり、その目的に照らしてやむを得ないと言える場合。

5.「合理的配慮」の考え方：個々の場面において、障害者から社会的障壁の除去を必要としている旨の意思の表明があった場合に、実施に伴う負担が過重でないときは、障害者の権利利益を侵害することとならないよう、合理的配慮を提供することとされている。行政機関等においては、率先して取り組む主体として法的義務だが、事業者については、障害者との関係が分野ごとに様々であることから努力義務とされている。

6.「過重な負担」に当たると判断した場合：個々の場面において、下記の考慮要素に照らし、代替措置の選択も含め、双方の建設的対話による相互理解を通じた柔軟な対応をする。総合的・客観的な考慮の結果、過重な負担に当たると判断した場合は、障害者にその理由を説明するとともに、理解を得るように心がける。

①事務・事業への影響の程度. ②実現可能生の程度. ③費用・負担の程度. ④事務・事業規模. ⑤財政・財務状況

参考ホームページ

http://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/sabekai/kihonhoushin/honbun.html

http://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/sabekai/taioyoryo.html

http://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/sabekai/taioshishin.html

http://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/law_h25-65_qa_kokumin.html

協議事項　　司会　　田山二朗　委員長

1. 各地域での福祉医療の実状・問題点について

聴覚障害で身障２級の特別児童扶養手当受給児が、18歳になり障害年金の受給を受けようとする際に、ABR等の他覚的検査が必要とされる。

2. キーパーソンに対するアンケート結果について

24都道府県から回答があった（51％）。

詳細については後日報告する。

3.「難病指定医」制度について

難病指定医：新規申請及び更新申請のための臨床調査個人票（診断書）を

作成することができる。

【要件】

以下の①②の要件を満たした上で、③又は④のどちらかを満たすこと

① 診断又は治療に５年以上従事した経験（臨床研修期間含む）を有すること

② 診断書を作成するのに必要な知識と技能を有すること

③ 関係学会が認定する専門医の資格を有すること

④ 指定難病の診断及び治療に従事した経験があり、今後、知事が行う研修を平成29年３月31日までに受ける意思のあること

協力難病指定医：更新申請のための臨床調査個人票（診断書）のみ作成することができる。

【要件】

以下の①②③の全ての要件を満たすこと

① 診断又は治療に５年以上従事した経験を有すること

② 診断書を作成するのに必要な知識と技能を有すること

③ 知事が行う研修※を終了したこと

※ ③の内容は、難病指定医の④の内容とは異なる

4. その他

耳鼻咽喉科医療機関で補聴器を販売することに関する見解

日本耳鼻咽喉科学会福祉医療・成人老年委員会は、厚生労働省医政局総務課より都道府県等の医療担当部局に対して行われた事務連絡「医療機関におけるコンタクトレンズ等の医療機器やサプリメント等の食品の販売について」（平成26年８月28日）に関して、補聴器キーパーソン制度および補聴器相談医制度を運営し補聴器販売のあり方を難聴者にとって適正なものとする活動を行っている立場を踏まえて、以下の通りに見解をまとめましたのでお知らせします。

現在、耳鼻咽喉科医師が補聴器が必要な難聴者に対して医療機関内で適合販売をすすめる場合は、診療に付随して認定補聴器技能者に出張販売を依頼しています。この時、診察、検査、適合など診療報酬に係わるところはすべて耳鼻咽喉科医師が行うか、国家資格を持つ有資格者が医師の指導の下で行

っています。試聴、売買、補聴器の返品、交換、修理などは認定補聴器技能者が行っています。今後も従来通りに行うことに問題はありません。今回の事務連絡では、耳鼻咽喉科医師が療養の向上を目的とした場合に限って、難聴患者に直接に補聴器を販売することが（厚生労働省は「有償」で「交付」すると表現している）可能であると示されました。難聴患者が従来よりも不利益を被ることがないように耳鼻咽喉科医師が直接に補聴器を販売する場合には、必ず患者を診察して診療に随伴する販売とすることに加えて、試聴の希望に対応すること、販売する補聴器は新品とすること、販売後の再調整、修理の要望に適切に対応することを要請します。

閉会の辞　　髙橋　姿　担当理事

日耳鼻発第140号　　平成28年３月15日

平成27年度　日本耳鼻咽喉科学会
医事問題委員会ワークショップおよび全国会議

平成28年１月30日（土）16：00～20：00（於：東海大学校友会館）
担当理事：伊藤壽一　　委員長：鈴木賢二

テーマ　「事例に学ぶ医事紛争」

1. 平成27年度医事問題委員会報告（鈴木賢二委員長）

（１）今年度に委員会を３回開催した。

（２）第40回医事問題セミナー（平成27年６月27日（土）・28日（日）、担当：島根県地方部会、会長：川内秀之、参加者109名）を開催した。

（３）平成27年度医事問題委員会ワークショップおよび全国会議（平成28年１月30日、テーマ：事例に学ぶ医事紛争）を開催した。

（４）「医事紛争とその問題点」第31巻（平成26年度医事問題委員会ワークショ

ップ・全国会議、および第40回医事問題セミナーの内容を収録）を刊行した。

（５）勤務医師賠償責任保険、所得補償保険・長期障害所得補償保険の継続手続きを行った。勤務医師賠償責任保険の加入者数は若干減少しつつある。

（６）医賠責審査会と連絡を取り、医事紛争の合理的解決に務めた。

（７）平成27年10月１日発足した“医療事故調査制度”に「医療事故調査等支援団体」として74名の委員を推薦し協力した。また、医療事故に関連して開催が推進されている大学病院・基幹病院の事故調査委員会に外部委員として協力した。

（８）医療事故に関するアンケート調査のデータベースバージョンアップを行った。

2. 医療事故に関するアンケート調査の結果報告（沖久　衛委員）

前年度から紛争継続中の医療事故、平成26年度（平成26年10月～平成27年９月）に発生した紛争に至った医療事故、および紛争に至らなかった医療事故について集計と解析、検討を行った。前年度から継続中の医療事故は25件、期間中に紛争に至った事例は51件、紛争に至らなかった事例は15件、再紛争０件であり、期間中の医療事故件数（紛争に至った事例＋紛争に至らなかった事例）は平成17年度（99件）をピークとして、最近は減少傾向にある。期間中の医療事故の内容（医療行為別の分類）としては、手術（24件：34.2％）が多く、次いで処置（16件：22.8％）、診断（９件：12.8％）、検査とその他それぞれ（６件：8.5％）の事例が多かった。インフォームドコンセント関連事例は平成15年度をピークに減少傾向にあり、本年度は１件であった。資料「医療事故に関するアンケート調査結果」は、出席した各地方部会委員、および地方部会長などに配布されている。

3. 事例報告・検討

領域ごとの事例報告・検討（①耳領域：近松一朗委員、②鼻領域：野中学委員、③口腔・咽頭・唾液腺、喉頭・頸部領域：奥村隆司委員、④頭頸部領域：村塚幸穂委員）が行われた。報告、および事例検討の内容は「医事紛

争とその問題点」第32巻（平成29年１月発刊予定）に掲載の予定である。

日耳鼻発第141号　　平成28年３月15日

平成27年度　日本耳鼻咽喉科学会
学校保健全国代表者会議ならびに学校保健研修会報告

平成28年１月30日（土）15：00～19：00、１月31日（日）９：00～11：00
（於：東海大学校友会館）
担当理事：吉原俊雄　　委員長：大島清史

標記会議が各地方部会から130名の参加者をもって開催された。日本耳鼻咽喉科学会　久　育男理事長の開会のあいさつに続き、来賓として日本医師会　道永麻里常任理事、日本学校保健会　弓倉　整専務理事、文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課　松永夏来学校保健対策専門官からごあいさつを賜った。

1. 協議事項

（１）「耳鼻咽喉科の健康診断マニュアル（案）について」

①本年より施行される学校保健安全法施行規則の一部改正への対応、②「児童生徒等の健康診断マニュアル」（日本学校保健会刊行）の改訂への対応、③耳鼻咽喉科健診の全国定点調査への準備、④耳鼻咽喉科健診の重要性や、耳鼻咽喉科学会の取り組みを文部科学省、医師会、学校保健会等、学校保健関係者に提示することを目的として今回のマニュアル作成を行った。

（２）「全国定点調査について」

前回の定点調査は平成12年から16年の５年間に行われている。文科省の健診結果の統計では耳鼻咽喉科疾患は包括化されていることから、詳細な疾患別データによる統計的推移を把握するため、全国各地に定点を設定して健康診断結果の疾患別調査を行ったものである。前回の調査から12年の経過がある事、学校保健安全法施行規則の一部改正があることを受け、今回の調査が

計画された。目的は以下の通りである。

1　児童生徒の健康状態を把握する。

2　児童生徒の疾病構造を把握する。

3　児童生徒の疾病動態について年次変化を把握する。

4　耳鼻咽喉科疾患の重要性について地域へ啓発する。

実施期間は、平成28年～平成32年の５年間で、日耳鼻選定の疾患（所見）名と診断基準を使用することを条件として行うこととしている。

2. 研修会

（１）「小児の吃音―その診方と耳鼻咽喉科医に求められる対応―」という演題で国立障害者リハビリテーションセンター学院　言語聴覚科　教官・言語聴覚士の坂田善政先生の講演があった。小児の吃音の診断基準が示され、症状や言語聴覚士による診療が、多くの具体例で紹介された。耳鼻咽喉科医が学校健診や吃音児童生徒への対応で留意するべき点が解説され、示唆に富む講演であった。

（２）きこえにくさを訴える子ども達

下記２講演が行われ、きこえにくいことで対応が望まれる児童生徒が紹介された。

①「聴覚過敏を訴える子ども達の事情」という演題で県立広島病院小児感覚器科主任部長の益田　慎先生により講演が行われた。自験例は主に二つに大別された。一つは音を聞くとめまいが誘発される場合で、もう一つは音を聞くことで共感覚を自覚してしまう場合である。自閉症スペクトラムの合併は３割以下であった。周囲で関わる人が理解できるかどうかが対応の鍵になる。

②「高校生の難聴の訴えについて―聴力正常者の有り様」という演題で浅野耳鼻咽喉科医院院長の浅野　尚先生の講演が行われた。担当高校での定期健康診断の際に難聴のアンケートを行った。３％から６％がきこえが悪いと回答したが、実際に聴力検査を行うと正常であった。検査結果を丁寧に説明することが不安解消につながった。

詳細については全国会議の出席者がお持ちの当日に配付された資料に記載されている。本会議をまとめた「平成27年度　耳鼻咽喉科学校保健の動向」を発刊し提供させていただく予定なので、是非ご一読いただきたい。また、平成26年度と同様に日本耳鼻咽喉科学会ホームページに「耳鼻咽喉科学校保健の動向」を掲載する予定である。

日耳鼻発第141号　　平成28年３月15日

平成27年度　日本耳鼻咽喉科学会
社療部保険医療委員会ワークショップおよび
全国会議報告

平成28年１月30日（土）（於：東海大学校友会館）
担当理事：髙橋　姿、原　　晃、吉原俊雄
委 員 長：藤岡　治

全国会議

演題：「平成28年度　診療報酬改定について ―在宅医療・摂食嚥下障害―」

講師：鈴木　邦彦　　日本医師会常任理事

司会：髙橋　姿　理事

いわゆる団塊の世代（昭和22年～昭和24生まれ）が後期高齢者（75歳以上）になり、社会保障費の急増が予想される2025年（平成37年）まであと10年。その間に社会保障制度の改革を進めることが緊急の課題となっている。今年は後期高齢者が急増することによって生じる超高齢社会を乗り切るための制度改革の重要な年と位置付けられている。

そこで持続可能な社会保障制度の実現に向けてどの様に医療制度（保険制度）、介護保険制度を改革していくかということが話の要点であった。

• 在宅医療制度の見直し

即ち第３の医療として重要となっている在宅医療の中でも、耳鼻咽喉科医

が関わられる摂食嚥下障害における他職種との関わりについて述べられた。

- 現在は歯科医師が主に関わっているこの分野の医療における役割の評価について改めて話された。具体的には胃瘻造設に関しては、経口摂取への復帰を目指す点数改定となる。

　口腔・栄養管理に関する取り組みは医療保険診療報酬ではなく、介護報酬で行う方向になっている。

- かかりつけ医のみならず、かかりつけ歯科医・かかりつけ薬剤師・薬局の評価が議論されており、平成37年度に向けて平成30年迄に今年から２年間、確固たる医療計画策定・介護保険事業（支援）計画が策定される。これに対応すべく日本医師会は、垂直連携中心から水平連携中心へ移行を図っている。急性期大病院は最後のとりでと位置付け、かかりつけ医を養成すべく研修制度を都道府県単位で始めることを話された。

保険医療委員会活動報告

委員長　藤岡　治

今年度の委員会活動が報告された。

（１）保険医療委員会を５回開催した。合わせて全国協議会、全国会議、ワークショップも開催した。

（２）耳鼻咽喉科保険医療実態調査を例年通り行った。11回の調査となり経年的具体的資料の蓄積が貴重な資料となっている。集計ソフト使用施設の増加とともに精度が増している。

調査依頼機関の高齢化による偏りを解消するため、平成27年度10月の調査から各地方部会において一部医療機関の変更を行った。

（３）平成28年度診療報酬改定について、外保連、日本医師会へ要望項目を申請した。今回の改定に関しては、「地域包括ケアシステムの推進と医療機能の分化および強化評価、連携に関する視点」から、在宅、入院、薬剤関連が重点項目なる。具体的な改定については２月中旬以降の決定を待つ状況である。

（４）舌下免疫療法については、スギ花粉に引き続き昨年秋からダニ舌下免疫療法用薬剤が発売された。今後の処方資格についてはｅ-ラーニング中心と

なる。

（5）外保連活動について診療報酬関係の他には各種資料の作成、提案を行う。また、ワーキンググループ再編に応じた組織改編に対応して活動していく。

（6）日本医師会および日本医学会関連については、診療報酬関係の他に治験推進事業や薬理作用に基づく医薬品の適応外使用症例募集に協力している。

（7）厚生労働省関係では診断群分類案作成調査研究班に協力した。また、スイッチOTC薬の発売に先んじて意見を求められ回答した。今後も同様な案件では厚労省と連携を図っていく。

（8）今後の方針としては外保連、日本医師会への対応、協力により新医療技術の評価と成果を診療報酬に反映させて行く。術式項目の整理、少子高齢化における幼児医療、高齢者難聴、嚥下障害、在宅医療への対応等が今後の課題である。

ワークショップ

演題：「日本専門医機構による専門医の更新」

講師：新川　秀一　　日耳鼻専門医制度委員会　担当理事

司会：原　晃　理事

平成28年度から一般社団法人日本専門医機構による新専門医制度が開始となる。その中で特に更新基準について解説する。平成31年度更新対象者（認定期限：平成32年３月31日）までは移行措置となり、更新年度により単位数などの更新要件が異なる。

更新期間については従来と同様に５年ごとの更新となるが、日本耳鼻咽喉科学会認定専門医制度との更新基準と一部異なるため解説する。

① 勤務形態の自己申告が追加された。（更新期間内の直近の１年間の勤務形態）

② 診療実績の証明が必要となる（10単位）。

③ ５年間で更新単位50単位が必要である。

- 従来の学会・研修会参加と取得単位が変更となる。各単位数については資料参照。

- 「専門医共通講習」が必須となり、特に「医療安全講習会」「医療感染対策講習会」「医療倫理講習会」が必修項目となることが重要である。その他の共通講習会内容については資料参照。
- 耳鼻咽喉科領域講習も20単位以上となる。
- 診療以外の活動実績の中に学校医活動も単位として認定される。ただし委嘱状のある学校医のみとなる。
- ５年間に日耳鼻総会、専門医講習会への参加については２回が必須であったが、いずれか１回の参加が必須となる。

④　70歳以上の特例措置が廃止された。

従来70歳以上は特例で学術集会参加義務が免除になっていたが、特例廃止により平成28年４月１日からは学術参加報告票の提出が必要となる。参加報告票がすべての専門医に配布されることになる。

⑤　過去に学会あるいは機構認定専門医であったが何らかの理由で資格喪失した場合は、５年後に更新基準を満たすことにより資格回復可能となった。

⑥　平成28年４月１日の時点で連続して５回以上資格更新を行った専門医は診療実績の証明（10単位）が免除され学術集会参加等のその他の単位で代替できる。ただし現在65歳以上の者は４回更新でも本特例を利用できる。

詳しくは各個人に昨年12月に送付された「新専門医制度における耳鼻咽喉科専門医の更新基準について」を資料として参照のこと。

まだないくすりを
創るしごと。

世界には、まだ治せない病気があります。

世界には、まだ治せない病気とたたかう人たちがいます。

明日を変える一錠を創る。

アステラスの、しごとです。

明日は変えられる。

astellas
Leading Light for Life
アステラス製薬

www.astellas.com/jp/

【禁　忌(次の患者には投与しないこと)】
本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

効能・効果

気管支喘息、アレルギー性鼻炎

用法・用量

<気管支喘息>
通常、成人にはモンテルカストとして10mgを1日1回就寝前に経口投与する。
<アレルギー性鼻炎>
通常、成人にはモンテルカストとして5～10mgを1日1回就寝前に経口投与する。
<用法・用量に関連する使用上の注意>
シングレア®錠5mg、シングレア®錠10mg
モンテルカストフィルムコーティング錠はモンテルカストチュアブル錠と生物学的に同等でなく、モンテルカストチュアブル錠はモンテルカストフィルムコーティング錠と比較してバイオアベイラビリティが高いため、モンテルカストフィルムコーティング錠5mgとモンテルカストチュアブル錠5mgをそれぞれ相互に代用しないこと。
シングレア®錠5mg、シングレア®錠10mg、シングレア®OD錠10mg
気管支喘息及びアレルギー性鼻炎を合併し本剤を気管支喘息の治療のために用いる成人患者には、モンテルカストとして10mgを1日1回就寝前に経口投与すること。

使用上の注意(抜粋)

1.重要な基本的注意
(1)本剤は、喘息の悪化時ばかりでなく、喘息が良好にコントロールされている場合でも継続して服用するよう、喘息患者に十分説明しておくこと。
(2)本剤は気管支拡張剤、ステロイド剤等と異なり、すでに起こっている喘息発作を緩解する薬剤ではないので、このことは患者に十分説明しておく必要がある。
(3)気管支喘息患者に本剤を投与中、大発作をみた場合は、気管支拡張剤あるいはステロイド剤を投与する必要がある。
(4)長期ステロイド療法を受けている患者で、本剤投与によりステロイドの減量をはかる場合は十分な管理下で徐々に行うこと。
(5)本剤投与によりステロイド維持量を減量し得た患者で、本剤の投与を中止する場合は、原疾患再発のおそれがあるので注意すること。
(6)本剤との因果関係は明らかではないが、うつ病、自殺念慮、自殺及び攻撃的行動を含む精神症状が報告されているので、患者の状態を十分に観察すること。〔「その他の注意」の項参照〕
(7)本剤を含めロイコトリエン拮抗剤使用時にChurg-Strauss症候群様の血管炎を生じたとの報告がある。これらの症状は、おおむね経口ステロイド剤の減量・中止時に生じている。本剤使用時は、特に好酸球数の推移及びしびれ、四肢脱力、発熱、関節痛、肺の浸潤影等の血管炎症状に注意すること。
(8)本剤投与により効果が認められない場合には、漫然と長期にわたり投与しないように注意すること。

2.相互作用
本剤は、主として薬物代謝酵素チトクロームP450(CYP)2C8/2C9及び3A4で代謝される。
〔併用注意〕(併用に注意すること)薬剤名等：フェノバルビタール

3.副作用
<気管支喘息>
国内で実施された臨床試験において、523例中46例(8.8%)に66件の副作用が認められた。主な副作用は下痢9件(1.7%)、腹痛7件(1.3%)、嘔気6件(1.1%)、胸やけ5件(1.0%)、頭痛5件(1.0%)等であった。臨床検査値の異常変動は、507例中49例80件に認められ、主なものはALT(GPT)上昇(505例中14件)、γ-GTP上昇(463例中9件)、Al-P上昇(476例中8件)等であった。(承認時)
国内で実施された特定使用成績調査における安全性評価対象3,891例中94例(2.4%)に116件(臨床検査値異常を含む)の副作用が認められ、主な副作用は、肝機能異常、LDH増加、Al-P上昇、発疹各8件(0.2%)、そう痒症6件(0.2%)であった。(再審査終了時)
<アレルギー性鼻炎>
国内で実施された臨床試験において、1,678例中70例(4.2%)に88件の副作用が認められた。主な副作用は口渇14件(0.8%)、傾眠13件(0.8%)、胃不快感9件(0.5%)、頭痛5件(0.3%)、下痢5件(0.3%)、倦怠感5件(0.3%)等であった。1%以上の頻度で認められたものはなかった。また、臨床検査値の異常変動は、1,672例中46例51件に認められ、主なものはALT(GPT)上昇(1,672例中9件)、白血球数増加(1,670例中6件)、尿潜血(1,671例中6件)等で、気管支喘息と同様であった。(承認時)
国内で実施された製造販売後調査(使用成績調査及び特定使用成績調査)における安全性評価対象1,365例中9例(0.7%)に9件(臨床検査値異常を含む)の副作用が認められ、主な副作用は、傾眠2件(0.1%)、全身性そう痒症2件(0.1%)であった。(再審査申請時)
(1)重大な副作用
1)**アナフィラキシー**(頻度不明)：アナフィラキシーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には直ちに投与を中止し適切な処置を行うこと。
2)**血管浮腫**(頻度不明)：血管浮腫があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には直ちに投与を中止し適切な処置を行うこと。
3)**劇症肝炎**(頻度不明)、**肝炎**(頻度不明)、**肝機能障害**(0.01%)、**黄疸**(頻度不明)：劇症肝炎、肝炎、肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し適切な処置を行うこと。
4)**中毒性表皮壊死融解症(Toxic Epidermal Necrolysis：TEN)**(頻度不明)、**皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson症候群)**(頻度不明)、**多形紅斑**(0.01%)：中毒性表皮壊死融解症、皮膚粘膜眼症候群、多形紅斑があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し適切な処置を行うこと。
5)**血小板減少**(頻度不明)：血小板減少(初期症状：紫斑、鼻出血、歯肉出血等の出血傾向)があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

その他の使用上の注意については添付文書をご参照ください。

気管支喘息治療薬・アレルギー性鼻炎治療薬　薬価基準収載
ロイコトリエン受容体拮抗薬

シングレア®OD錠10mg 錠5mg・10mg

モンテルカストナトリウム錠 / 口腔内崩壊錠　SINGULAIR®

【MSDカスタマーサポートセンター】
医療関係者の方：フリーダイヤル 0120-024-961
〈受付時間〉9:00-17:30（土日祝日・当社休日を除く）

MSD

製造販売元［資料請求先］
MSD株式会社
〒102-8667 東京都千代田区九段北1-13-12 北の丸スクエア
http://www.msd.co.jp/

2015年12月作成　SGA15AD197-1016

選択的NK1受容体拮抗型制吐剤

薬価基準収載

イメンド®

カプセル125mg
カプセル80mg
カプセルセット

アプレピタントカプセル　EMEND®

処方箋医薬品注)　注）注意ー医師等の処方箋により使用すること

® Registered Trademark of Merck Sharp & Dohme Corp., a subsidiary of Merck & Co., Inc., Whitehouse Station, N.J., U.S.A.

■ 効能・効果、用法・用量、及び禁忌を含む使用上の注意等、詳細は製品添付文書をご参照ください。

選択的NK1受容体拮抗型制吐剤

薬価基準収載

プロイメンド®

点滴静注用
150mg

注射用ホスアプレピタントメグルミン　PROEMEND®

処方箋医薬品注)　注）注意ー医師等の処方箋により使用すること

® Registered Trademark of Merck Sharp & Dohme Corp., a subsidiary of Merck & Co., Inc., Whitehouse Station, N.J., U.S.A.

■ 効能・効果、用法・用量、及び禁忌を含む使用上の注意等、詳細は製品添付文書をご参照ください。

資料請求先

小野薬品工業株式会社

〒541-8564 大阪市中央区久太郎町1丁目8番2号

2016年3月作成

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】
本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【効能・効果】

気管支喘息、アレルギー性鼻炎

【用法・用量】

<気管支喘息>
通常、成人にはモンテルカストとして10mgを1日1回就寝前に経口投与する。
<アレルギー性鼻炎>
通常、成人にはモンテルカストとして5～10mgを1日1回就寝前に経口投与する。

<用法・用量に関連する使用上の注意>
1.モンテルカストフィルムコーティング錠はモンテルカストチュアブル錠と生物学的に同等でなく、モンテルカストチュアブル錠はモンテルカストフィルムコーティング錠と比較してバイオアベイラビリティが高いため、モンテルカストフィルムコーティング錠5mgとモンテルカストチュアブル錠5mgをそれぞれ相互に代用しないこと。
2.気管支喘息及びアレルギー性鼻炎を合併し本剤を気管支喘息の治療のために用いる成人患者には、モンテルカストとして10mgを1日1回就寝前に経口投与すること。

【使用上の注意】

1.**重要な基本的注意**
(1)本剤は、喘息の悪化時ばかりでなく、喘息が良好にコントロールされている場合でも継続して服用するよう、喘息患者に十分説明しておくこと。
(2)本剤は気管支拡張剤、ステロイド剤等と異なり、すでに起こっている喘息発作を緩解する薬剤ではないので、このことは患者に十分説明しておく必要がある。
(3)気管支喘息患者に本剤を投与中、大発作をみた場合は、気管支拡張剤あるいはステロイド剤を投与する必要がある。
(4)長期ステロイド療法を受けている患者で、本剤投与によりステロイドの減量をはかる場合は十分な管理下で徐々に行うこと。
(5)本剤投与によりステロイド維持量を減量し得た患者で、本剤の投与を中止する場合は、原疾患再発のおそれがあるので注意すること。
(6)本剤との因果関係は明らかではないが、うつ病、自殺念慮、自殺及び攻撃的行動を含む精神症状が報告されているので、患者の状態を十分に観察すること。
(7)本剤を含めロイコトリエン拮抗剤使用時にChurg-Strauss症候群様の血管炎を生じたとの報告がある。これらの症状は、おおむね経口ステロイド剤の減量・中止時に生じている。本剤使用時は、特に好酸球数の推移及びしびれ、四肢脱力、発熱、関節痛、肺の浸潤影等の血管炎症状に注意すること。
(8)本剤投与により効果が認められない場合には、漫然と長期にわたり投与しないように注意すること。

2.**相互作用**
本剤は、主として薬物代謝酵素チトクロームP450(CYP)2C8/2C9及び3A4で代謝される。
[併用注意](併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
フェノバルビタール	本剤の作用が減弱するおそれがある。	フェノバルビタールがCYP3A4を誘導し、本剤の代謝が促進される。

3.**副作用**
<気管支喘息>
国内で実施された臨床試験において、523例中46例(8.8%)に66件の副作用が認められた。主な副作用は下痢9件(1.7%)、腹痛7件(1.3%)、嘔気6件(1.1%)、胸やけ5件(1.0%)、頭痛5件(1.0%)等であった。臨床検査値の異常変動は、507例中49例80件に認められ、主なものはALT(GPT)上昇(505例中14件)、γ-GTP上昇(463例中9件)、Al-P上昇(476例中8件)等であった。(承認時)
国内で実施された特定使用成績調査における安全性評価対象3,891例中94例(2.4%)に116件(臨床検査値異常を含む)の副作用が認められ、主な副作用は、肝機能異常、LDH増加、Al-P上昇、発疹各8件(0.2%)、瘙痒症6件(0.2%)であった。(再審査終了時)
<アレルギー性鼻炎>
国内で実施された臨床試験において、1,678例中70例(4.2%)に88件の副作用が認められた。主な副作用は口渇14件(0.8%)、傾眠13件(0.8%)、胃不快感9件(0.5%)、頭痛5件(0.3%)、下痢5件(0.3%)、倦怠感5件(0.3%)等であった。 1%以上の頻度で認められたものはなかった。
また、臨床検査値の異常変動は、1,672例中46例51件に認められ、主なものはALT(GPT)上昇(1,672例中9件)、白血球数増加(1,670例中6件)、尿潜血(1,671例中6件)等で、気管支喘息と同様であった。(承認時)
国内で実施された製造販売後調査(使用成績調査及び特定使用成績調査)における安全性評価対象1,365例中9例(0.7%)に9件(臨床検査値異常を含む)の副作用が認められ、主な副作用は、傾眠2件(0.1%)、全身性瘙痒症2件(0.1%)であった。(再審査申請時)
(1)**重大な副作用**
1)**アナフィラキシー**(頻度不明)
アナフィラキシーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には直ちに投与を中止し適切な処置を行うこと。
2)**血管浮腫**(頻度不明)
血管浮腫があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には直ちに投与を中止し適切な処置を行うこと。
3)**劇症肝炎**(頻度不明)、**肝炎**(頻度不明)、**肝機能障害**(0.01%)、**黄疸**(頻度不明)
劇症肝炎、肝炎、肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し適切な処置を行うこと。
4)**中毒性表皮壊死融解症(Toxic Epidermal Necrolysis:TEN)**(頻度不明)、**皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson症候群)**(頻度不明)、**多形紅斑**(0.01%)
中毒性表皮壊死融解症、皮膚粘膜眼症候群、多形紅斑があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し適切な処置を行うこと。
5)**血小板減少**(頻度不明)
血小板減少(初期症状:紫斑、鼻出血、歯肉出血等の出血傾向)があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

禁忌を含む使用上の注意の改訂に十分ご留意下さい。

●その他詳細につきましては添付文書等をご参照下さい。

2015年2月改訂(第24版)

ロイコトリエン受容体拮抗剤
気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤　(薬価基準収載)

キプレス®錠5mg
キプレス®錠10mg

KIPRES® Tablets 5mg　KIPRES® Tablets 10mg

一般名:モンテルカストナトリウム〔JAN〕

杏林製薬株式会社
東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地
〈資料請求先:くすり情報センター〉

作成年月:2015.3

「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌を含む使用上の注意」、「用法・用量に関連する使用上の注意」等については、添付文書をご参照ください。

製造販売元
グラクソ・スミスクライン株式会社
〒151-8566　東京都渋谷区千駄ヶ谷 4ー6ー15

グラクソ・スミスクラインの製品に関するお問い合わせ・資料請求先
TEL：0120-561-007（9:00～18:00／土日祝日および当社休業日を除く）
FAX：0120-561-047（24時間受付）

2015年6月作成

【禁　忌】(次の患者には投与しないこと)
1.本剤の成分又は他のキノロン系抗菌薬に対し過敏症の既往歴のある患者
2.妊婦又は妊娠している可能性のある婦人(「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照)
3.小児等(「小児等への投与」及び「その他の注意」の項参照)

効能・効果

〈適応菌種〉　本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、モラクセラ(ブランハメラ)・カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、インフルエンザ菌、緑膿菌、レジオネラ・ニューモフィラ、ペプトストレプトコッカス属、プレボテラ属、ポルフィロモナス属、フソバクテリウム属、トラコーマクラミジア(クラミジア・トラコマティス)、肺炎クラミジア(クラミジア・ニューモニエ)、肺炎マイコプラズマ(マイコプラズマ・ニューモニエ)

〈適応症〉　○咽頭・喉頭炎、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む)、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染　○膀胱炎、腎盂腎炎、尿道炎　○子宮頸管炎　○中耳炎、副鼻腔炎　○歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎

〈効能・効果に関連する使用上の注意〉
本剤は下痢、軟便が高頻度に認められているため、本剤の使用に際しては、リスクとベネフィットを考慮すること(「副作用」の項参照)。

用法・用量

通常、成人に対してシタフロキサシンとして1回50mg(錠:1錠又は細粒:0.5g)を1日2回又は1回100mg(錠:2錠又は細粒:1.0g)を1日1回経口投与する。なお、効果不十分と思われる症例には、シタフロキサシンとして1回100mg(錠:2錠又は細粒:1.0g)を1日2回経口投与することができる。

〈用法・用量に関連する使用上の注意〉
1.本剤の使用にあたっては、耐性菌の発現等を防ぐため、原則として感受性を確認し、疾病の治療上必要な最小限の期間の投与にとどめること。
2.腎機能が低下している患者では、本剤の血中濃度が上昇するため、投与量、投与間隔を調節すること(「薬物動態」の項参照)。

使用上の注意

1.慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)　(1)腎機能障害のある患者[高い血中濃度の持続が認められている(「薬物動態」の項参照)。]　(2)てんかん等の痙攣性疾患又はこれらの既往歴のある患者[類薬で痙攣を起こすとの報告がある。]　(3)重症筋無力症の患者[類薬で症状を悪化させるとの報告がある。]　(4)高齢者(「高齢者への投与」の項参照)　**2.相互作用　併用注意(併用に注意すること)**　アルミニウム又はマグネシウム含有の制酸薬等、カルシウム剤、鉄剤　フェニル酢酸系又はプロピオン酸系非ステロイド性消炎鎮痛薬(ケトプロフェン等)　**3.副作用**　国内の臨床試験において、総症例1,220例中409例(33.5%)に副作用(臨床検査値異常変動を含む)が認められた。主な副作用は、下痢69例(5.7%)、軟便86例(7.0%)、頭痛26例(2.1%)、ALT(GPT)上昇72例(5.9%)、AST(GOT)上昇59例(4.8%)、好酸球数増加47例(3.9%)等であった。〔用法・用量追加承認時〕　使用成績調査(調査期間:2008年12月～2010年11月)において、総症例3,331例中148例(4.4%)に副作用(臨床検査値異常変動を含む)が認められた。主な副作用は、下痢41例(1.2%)、軟便14例(0.4%)、ALT(GPT)上昇22例(0.7%)、AST(GOT)上昇16例(0.5%)、発疹12例(0.4%)等であった。〔使用成績調査終了時〕　**(1)重大な副作用**　1)ショック、アナフィラキシー(頻度不明注)):ショック、アナフィラキシーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、血圧低下、呼吸困難、皮疹、血管性浮腫等の異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。　2)**皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson 症候群)**(頻度不明注)):皮膚粘膜眼症候群があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。　3)**急性腎不全**(頻度不明注)):急性腎不全があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。　4)**肝機能障害**(0.1%未満):肝機能障害(AST(GOT)上昇、ALT(GPT)上昇等)があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。　5)**偽膜性大腸炎**(頻度不明注)):偽膜性大腸炎があらわれることがあるので、腹痛、頻回の下痢等が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。　6)**低血糖**(0.1%未満):低血糖があらわれることがあり、低血糖性昏睡に至る例も報告されているので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。糖尿病患者、腎機能障害患者、高齢者であらわれやすい。　**(2)重大な副作用(類薬)**　他のニューキノロン系抗菌薬で以下の重大な副作用が報告されているので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。　1)**中毒性表皮壊死融解症**(Toxic Epidermal Necrolysis:TEN)　2)**痙攣**　3)**QT延長、心室頻拍**(Torsades de pointesを含む)　4)**黄疸**　5)**間質性肺炎**　6)**横紋筋融解症**　7)**腱障害**　8)**無顆粒球症**　9)**汎血球減少症**　10)**血小板減少**　11)**溶血性貧血**　12)**錯乱、せん妄、幻覚などの精神症状**　13)**重症筋無力症の悪化**

注)自発報告において認められている副作用のため頻度不明。

★その他の詳細につきましては、製品添付文書をご参照ください。

広範囲経口抗菌製剤　処方箋医薬品※

グレースビット®

錠50mg・細粒10%

GRACEVIT®　(一般名:シタフロキサシン水和物)

※注意－医師等の処方箋により使用すること　薬価基準収載

製造販売元(資料請求先)
第一三共株式会社
Daiichi-Sankyo
東京都中央区日本橋本町3-5-1

2014年9月作成

【禁忌】（次の患者には投与しないこと） 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【 効能・効果 】

<成人>アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患に伴う瘙痒（湿疹・皮膚炎、痒疹、皮膚瘙痒症）

<小児>アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患（湿疹・皮膚炎、皮膚瘙痒症）に伴う瘙痒

【 用法・用量 】

<成人>通常、成人にはベポタスチンベシル酸塩として1回10mgを1日2回経口投与する。
なお、年齢、症状により適宜増減する。

<小児>通常、7歳以上の小児にはベポタスチンベシル酸塩として1回10mgを1日2回経口投与する。

<用法・用量に関連する使用上の注意>
OD錠5mg、OD錠10mgは口腔内で速やかに崩壊することから唾液のみ（水なし）でも服用可能であるが、口腔粘膜からの吸収により効果発現を期待する製剤ではないため、崩壊後は唾液又は水で飲み込むこと。

【 使用上の注意 】

1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）
腎機能障害のある患者
〔本剤の血中濃度を上昇させることがある。また、高い血中濃度が持続するおそれがあるので、低用量（例えば1回量5mg）から投与するなど慎重に投与し、異常が認められた場合は減量、休薬するなど適切な処置を行う。〕

2. 重要な基本的注意
1）眠気を催すことがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械を操作する際には注意させること。
2）長期ステロイド療法を受けている患者で、本剤投与によりステロイドの減量を図る場合には十分な管理下で徐々に行うこと。
3）本剤を季節性の患者に投与する場合は、好発季節を考えて、その直前から投与を開始し、好発季節終了時まで続けることが望ましい。
4）本剤の使用により効果が認められない場合には、漫然と長期にわたり投与しないように注意すること。

3. 副作用
<成人>臨床試験（治験〔普通錠〕）：総症例1,446例中、副作用が報告されたのは137例（9.5%）であり、その主なものは、眠気83件（5.7%）、口渇16件（1.1%）、悪心12件（0.8%）、胃痛7件（0.5%）、下痢7件（0.5%）、胃部不快感6件（0.4%）、倦怠感4件（0.3%）、嘔吐4件（0.3%）等であった。また、臨床検査値異常として本剤との因果関係が疑われたものは、総症例1,225例中64例（5.2%）で、主なものは、ALT（GPT）上昇1,209例中25件（2.1%）、尿潜血1,020例中11件（1.1%）、γ-GTP上昇1,130例中10件（0.9%）、AST（GOT）上昇1,210例中8件（0.7%）等であった。使用成績調査〔普通錠〕（承認時～再審査期間終了時）：総症例4,453例中、副作用が報告されたのは89例（2.0%）であり、その主なものは、眠気59件（1.3%）等であった。
<小児>小児特定使用成績調査〔普通錠〕：小児患者（5歳以上～15歳未満）1,316例中、副作用が報告されたのは14例（1.1%）であり、その主なものは眠気5件（0.4%）、口渇2件（0.2%）、蕁麻疹2件（0.2%）等であった。臨床試験（治験〔普通錠〕）：第III相試験における小児患者（7歳以上15歳以下）615 例中、副作用が報告されたのは14例（2.3%）であった。その主なものは、眠気5件（0.8%）、肝機能検査異常2件（0.3%）、AST（GOT）上昇2件（0.3%）等であった。
副作用が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

●その他の使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。
●使用上の注意の改訂に十分ご留意ください。

選択的ヒスタミン H_1 受容体拮抗・アレルギー性疾患治療剤　薬価基準収載

タリオン® 錠5mg・10mg
OD錠5mg・10mg

TALION® Tablets 5mg・10mg（日本薬局方　ベポタスチンベシル酸塩錠）
TALION® OD Tablets 5mg・10mg（ベポタスチンベシル酸塩口腔内崩壊錠）

処方箋医薬品（注意 - 医師等の処方箋により使用すること）

提携
宇部興産株式会社

製造販売元（資料請求先）
田辺三菱製薬株式会社
大阪市中央区道修町3-2-10

2015年5月作成

薬価基準収載
'16.6作成

資料請求先 日本化薬株式会社
東京都千代田区丸の内二丁目1番1号

日本化薬医薬品情報センター
0120-505-282（フリーダイヤル）

日本化薬 医療従事者向け情報サイト
https://mink.nipponkayaku.co.jp

抗癌剤の製品ラインナップ

抗悪性腫瘍剤 毒薬・処方箋医薬品*
ランダ®注 10mg/20mL 25mg/50mL 50mg/100mL
シスプラチン製剤

抗悪性腫瘍剤 毒薬・処方箋医薬品*
動注用アイエーコール®50mg・100mg
シスプラチン製剤

抗悪性腫瘍剤 劇薬・処方箋医薬品*
ハイカムチン®注射用1.1mg
ノギテカン塩酸塩製剤

抗悪性腫瘍性抗生物質 劇薬・処方箋医薬品*
カルセド®注射用20mg・50mg
注射用アムルビシン塩酸塩

抗悪性腫瘍性抗生物質製剤 劇薬・処方箋医薬品*
ピノルビン®注射用10mg・20mg
注射用ピラルビシン塩酸塩

抗悪性腫瘍剤 劇薬・処方箋医薬品*
ラステット®Sカプセル25mg・50mg
エトポシド製剤

抗悪性腫瘍剤 劇薬・処方箋医薬品*
ラステット®注100mg/5mL
エトポシド製剤

抗悪性腫瘍剤 劇薬・処方箋医薬品*
オンコビン®注射用 1mg
ビンクリスチン硫酸塩製剤

抗悪性腫瘍剤 劇薬・処方箋医薬品*
エクザール®注射用 10mg
日本薬局方 注射用ビンブラスチン硫酸塩

抗悪性腫瘍剤 劇薬・処方箋医薬品*
コボリン®静注用7.5mg
ペントスタチン注射剤

抗腫瘍性抗生物質 劇薬・処方箋医薬品*
ブレオ®注射用5mg・15mg
ブレオマイシン塩酸塩製剤

抗腫瘍性抗生物質 劇薬・処方箋医薬品*
ペプレオ®注射用5mg・10mg
日本薬局方 注射用ペプロマイシン硫酸塩

前立腺癌治療剤 劇薬・処方箋医薬品*
オダイン®錠125mg
フルタミド製剤

乳癌治療剤 劇薬・処方箋医薬品*
フェアストン®錠40・60
トレミフェンクエン酸塩製剤

抗悪性腫瘍剤 毒薬・処方箋医薬品*
スタラシド®カプセル 50・100
シタラビン オクホスファート水和物製剤

抗悪性腫瘍剤 処方箋医薬品*
ベスタチン®カプセル10mg・30mg
日本薬局方 ウベニメクスカプセル

抗悪性腫瘍剤 毒薬・処方箋医薬品*
パクリタキセル注 30mg/5mL 100mg/16.7mL「NK」
パクリタキセル製剤

抗悪性腫瘍剤 毒薬・処方箋医薬品*
カルボプラチン点滴静注液 50mg・150mg・450mg「NK」
日本薬局方 カルボプラチン注射液

その他の生物学的製剤・抗悪性腫瘍剤 生物由来製品・劇薬・処方箋医薬品*
イムノブラダー®膀注用80mg・40mg
乾燥BCG膀胱内用（日本株）「生物学的製剤基準」

抗悪性腫瘍剤 劇薬・処方箋医薬品*
イリノテカン塩酸塩点滴静注液 40mg 100mg「NK」
イリノテカン塩酸塩水和物点滴静注液

抗腫瘍性抗生物質製剤 劇薬・処方箋医薬品*
エピルビシン塩酸塩 注射用10mg・50mg「NK」
注射用エピルビシン塩酸塩

エピルビシン塩酸塩注射液 10mg/5mL 50mg/25mL「NK」
エピルビシン塩酸塩注射液

抗悪性腫瘍剤 劇薬・処方箋医薬品*
ドキソルビシン塩酸塩注射用10mg・50mg「NK」
日本薬局方 注射用ドキソルビシン塩酸塩

ビンカアルカロイド系抗悪性腫瘍剤 毒薬・処方箋医薬品*
ロゼウス®静注液10mg・40mg
ビノレルビン酒石酸塩静注液

アロマターゼ阻害剤／閉経後乳癌治療剤 処方箋医薬品*
エキセメスタン錠 25mg「NK」
エキセメスタン錠

アロマターゼ阻害剤/閉経後乳癌治療剤 劇薬・処方箋医薬品*
アナストロゾール錠 1mg「NK」
アナストロゾール錠

抗悪性腫瘍剤 劇薬・処方箋医薬品*
（チロシンキナーゼインヒビター）
イマチニブ錠100mg「NK」
イマチニブメシル酸塩錠

タキソイド系抗悪性腫瘍剤 毒薬・処方箋医薬品*
ドセタキセル点滴静注液 20mg/1mL 80mg/4mL「NK」
ドセタキセル注射液

タキソイド系抗悪性腫瘍剤 毒薬、処方箋医薬品*
ドセタキセル点滴静注 20mg/1mL 80mg/4mL「ニプロ」

抗悪性腫瘍剤 毒薬・処方箋医薬品*
オキサリプラチン点滴静注液 50mg・100mg・200mg「NK」
オキサリプラチン点滴静注液

アロマターゼ阻害剤 / 閉経後乳癌治療剤 劇薬・処方箋医薬品*
レトロゾール錠2.5mg「NK」
レトロゾール錠

前立腺癌治療剤 劇薬・処方箋医薬品*
ビカルタミド錠 80mg「NK」
ビカルタミド錠

ビカルタミドOD錠 80mg「NK」
ビカルタミド口腔内崩壊錠

代謝拮抗抗悪性腫瘍剤 劇薬・処方箋医薬品*
ゲムシタビン点滴静注用 200mg・1g「NK」
点滴静注用ゲムシタビン塩酸塩

ゲムシタビン点滴静注液 200mg/5mL 1g/25mL「NK」
ゲムシタビン塩酸塩注射液

代謝拮抗剤 劇薬・処方箋医薬品*
エヌケーエスワン®配合カプセルT20・T25
テガフール・ギメラシル・オテラシルカリウム配合カプセル剤

エヌケーエスワン®配合顆粒 T20・T25
テガフール・ギメラシル・オテラシルカリウム配合顆粒剤

エヌケーエスワン®配合OD錠 T20・T25
テガフール・ギメラシル・オテラシルカリウム配合口腔内崩壊錠

*注意 - 医師等の処方箋により使用すること

※警告、禁忌、効能・効果、用法・用量、使用上の注意などは、製品添付文書をご参照ください。

薬価基準収載

明日をもっとすこやかに

meiji

経口用セフェム系抗生物質製剤
処方せん医薬品注)
日本薬局方 セフジトレン ピボキシル錠

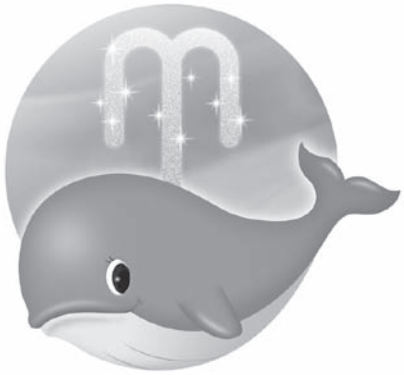
メイアクトMS®錠100mg

MEIACT MS® TABLETS 100mg

経口用セフェム系抗生物質製剤
処方せん医薬品注)
日本薬局方 セフジトレン ピボキシル細粒

メイアクトMS®小児用細粒10%

MEIACT MS® FINE GRANULES 10%



経口用カルバペネム系抗生物質製剤
処方せん医薬品注)
テビペネム ピボキシル細粒

オラペネム®小児用細粒10%

ORAPENEM® FINE GRANULES 10% FOR PEDIATRIC

注）注意ー医師等の処方せんにより使用すること

※「効能・効果」、「用法・用量」、「効能・効果に関連する使用上の注意」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、「禁忌・原則禁忌を含む使用上の注意」等、詳細は製品添付文書をご参照ください。

製造販売元
Meiji Seika ファルマ株式会社
東京都中央区京橋 2-4-16
http://www.meiji-seika-pharma.co.jp/

〈資料請求先〉
Meiji Seika ファルマ株式会社 くすり相談室
〒104-8002 東京都中央区京橋 2-4-16
電話(0120)093-396、(03)3273-3539

作成：2012.7

発　行　日　　平成28年８月１日

発　行　所　　日本耳鼻咽喉科学会大阪府地方部会
〒565-0871　大阪府吹田市山田丘2番2号
大阪大学医学部耳鼻咽喉科・
頭頸部外科学教室内
電話　０６－６８７９－３９５８

発　行　人　　猪　原　秀　典

編集委員長　　今　井　貴　夫

編 集 委 員　　山本秀文、岩井　大、寺尾恭一
萩森伸一